

(様式第10)

徳大院総第157号

令和5年10月3日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人徳島大学  
学長 河村保彦

徳島大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒770-8501 徳島県徳島市新蔵町2丁目24番地
氏名	国立大学法人徳島大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

徳島大学病院
--------

3 所在の場所

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50番地の1
電話 (088)631-3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科				11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科	
5血管外科		○	6心臓血管外科		7内分泌外科		○
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	病理診断科	3	リハビリテーション科	4	脳神経内科	5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
41	8	0	0	643	692

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	260	187	393.7
歯科医師	80	98	138.4
薬剤師	50	0	50
保健師	0	0	0
助産師	40	3	42.7
看護師	650	38	683.4
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	11	6	16.4
管理栄養士	12	1	12.8

職種	員数
看護補助者	76
理学療法士	16
作業療法士	5
視能訓練士	8
義肢装具士	0
臨床工学士	20
栄養士	0
歯科技工士	8
診療放射線技師	43

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	56
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	14	
その他の技術員	60	
事務職員	148	
その他の職員	5	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	89	眼科専門医	10
外科専門医	37	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	10	放射線科専門医	13
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	18
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	24
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	16
産婦人科専門医	17	救急科専門医	6
		合計	284

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 香美 祥二 ) 任命年月日 平成 31 年 4 月 1 日

リスクマネジメント委員会委員長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	504 人	10 人	514 人
1日当たり平均外来患者数	1,563 人	434 人	1,997 人
1日当たり平均調剤数	入院 475.9剤、 外来 39.2剤		
必要医師数	142 人		

必要歯科医師数	23	人
必要薬剤師数	18	人
必要(准)看護師数	324	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	225.5 ㎡	鉄筋コンクリート	11 床	有	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	495	㎡	病床数	28 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	63			㎡
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	72 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動分注装置、生化学分析装置		
細菌検査室	259 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物薬剤感受性分析装置、抗酸菌培養装置、細菌検査装置		
病理検査室	357 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動免疫染色装置、SL医用写真撮影装置		
病理解剖室	161 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台、スケール付ストレッチャー		
研究室	257 ㎡	鉄筋コンクリート	(主な設備)	マルチスライスCT、四肢用MRI、回診用X線装置		
講義室	982 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	28 室	收容定員	630 人
図書室	75 ㎡	鉄筋コンクリート	室数	1 室	蔵書数	4,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	77.6	%	逆紹介率	60.6	%
算出根拠	A: 紹介患者の数		16,861		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,576		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		511		人
	D: 初診の患者の数		22,396		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院・名誉院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	無	1
白川 剛	白川剛法律事務所・弁護士		法律に関する識見を有するため	無	1
上田 伊佐子	徳島文理大学保健福祉学部・教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べる事ができる者(学識経験を有する者)	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表	



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来治療法が終了予定のものに限る。)【令和5年6月1日削除】	13人
アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計	3
扱い患者数の合計(人)	13

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
扱い患者数の合計(人)	0



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	13	62	脊髄空洞症	1
2	筋萎縮性側索硬化症	102	63	脊髄髄膜瘤	0
3	脊髄性筋萎縮症	1	64	アイザックス症候群	0
4	原発性側索硬化症	1	65	遺伝性ジストニア	1
5	進行性核上性麻痺	40	66	神経フェリチン症	0
6	パーキンソン病	283	67	脳表ヘモジデリン沈着症	0
7	大脳皮質基底核変性症	29	68	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0
8	ハンチントン病	2	69	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
9	神経有棘赤血球症	1	70	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	11	71	ペリー症候群	0
11	重症筋無力症	139	72	前頭側頭葉変性症	8
12	先天性筋無力症候群	0	73	ピッカースタッフ脳幹脳炎	1
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	97	74	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	61	75	先天性無痛無汗症	1
15	封入体筋炎	7	76	アレキサンダー病	0
16	クロー・深瀬症候群	5	77	先天性核上性球麻痺	0
17	多系統萎縮症	55	78	メビウス症候群	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	77	79	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0
19	ライソゾーム病	4	80	アikalディ症候群	0
20	副腎白質ジストロフィー	1	81	片側巨脳症	0
21	ミトコンドリア病	5	82	限局性皮質異形成	1
22	もやもや病	60	83	神経細胞移動異常症	1
23	プリオン病	7	84	先天性大脳白質形成不全症	0
24	亜急性硬化性全脳炎	0	85	ドラベ症候群	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	86	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
26	HTLV-1関連脊髄症	7	87	ミオクロニー欠伸てんかん	0
27	特発性基底核石灰化症	0	88	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0
28	全身性アミロイドーシス	43	89	レノックス・ガストー症候群	2
29	ウルリッヒ病	0	90	ウエスト症候群	0
30	遠位型ミオパチー	0	91	大田原症候群	0
31	ベスレムミオパチー	0	92	早期ミオクロニー脳症	1
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	93	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	94	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0
34	神経線維腫症	31	95	環状20番染色体症候群	1
35	天疱瘡	21	96	ラスムッセン脳炎	1
36	表皮水疱症	2	97	PCDH19関連症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	15	98	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	4	99	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0
39	中毒性表皮壊死症	0	100	ランドウ・クレフナー症候群	0
40	高安動脈炎	12	101	レット症候群	1
41	巨細胞性動脈炎	6	102	スタージ・ウェーバー症候群	0
42	結節性多発動脈炎	7	103	結節性硬化症	4
43	顕微鏡的多発血管炎	27	104	色素性乾皮症	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	19	105	先天性魚鱗癬	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	19	106	左心低形成症候群	0
46	悪性関節リウマチ	9	107	三尖弁閉鎖症	0
47	バージャー病	7	108	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	109	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
49	全身性エリテマトーデス	232	110	ファロー四徴症	5
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	110	111	両大血管右室起始症	2
51	全身性強皮症	92	112	エプスタイン病	1
52	混合性結合組織病	45	113	アルポート症候群	1
53	シェーグレン症候群	71	114	ギャロウェイ・モット症候群	0
54	成人スチル病	10	115	急速進行性糸球体腎炎	10
55	再発性多発軟骨炎	4	116	抗糸球体基底膜腎炎	0
56	先天性ミオパチー	1	117	一次性ネフローゼ症候群	72
57	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	118	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
58	筋ジストロフィー	17	119	紫斑病性腎炎	5
59	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	120	先天性腎性尿崩症	0
60	遺伝性周期性四肢麻痺	0	121	間質性膀胱炎(ハンナ型)	8
61	アトピー性脊髄炎	0	122	オスラー病	6

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
123	閉塞性細気管支炎	0	183	下垂体性ADH分泌異常症	18
124	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	184	下垂体性TSH分泌亢進症	1
125	肺胞低換気症候群	1	185	下垂体性PRL分泌亢進症	6
126	$\alpha$ 1-アンチトリプシン欠乏症	0	186	クッシング病	10
127	カーニー複合	0	187	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
128	ウォルフラム症候群	0	188	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	23
129	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	189	下垂体前葉機能低下症	70
130	副甲状腺機能低下症	0	190	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
131	偽性副甲状腺機能低下症	0	191	甲状腺ホルモン不応症	0
132	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	192	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
133	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	8	193	先天性副腎低形成症	0
134	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	194	アジソン病	0
135	フェニルケトン尿症	1	195	サルコイドーシス	87
136	高チロシン血症1型	0	196	特発性間質性肺炎	100
137	高チロシン血症2型	0	197	肺動脈性肺高血圧症	21
138	高チロシン血症3型	1	198	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	1
139	メーブルシロップ尿症	0	199	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10
140	プロピオン酸血症	0	200	リンパ脈管筋腫症	3
141	メチルマロン酸血症	1	201	網膜色素変性症	20
142	イソ吉草酸血症	0	202	バッド・キアリ症候群	3
143	グルコーストランスporter-1欠損症	0	203	特発性門脈圧亢進症	3
144	グルタル酸血症1型	1	204	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	31
145	グルタル酸血症2型	0	205	原発性硬化性胆管炎	6
146	尿素サイクル異常症	0	206	自己免疫性肝炎	12
147	リジン尿性蛋白不耐症	0	207	クローン病	106
148	先天性葉酸吸収不全	0	208	潰瘍性大腸炎	195
149	ポルフィリン症	0	209	好酸球性消化管疾患	1
150	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	210	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
151	筋型糖原病	1	211	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
152	肝型糖原病	0	212	腸管神経節細胞僅少症	0
153	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	213	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
154	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	214	CFC症候群	0
155	シトステロール血症	0	215	コステロ症候群	0
156	タンジール病	0	216	チャージ症候群	0
157	原発性高カイロミクロン血症	0	217	クリオピリン関連周期熱症候群	0
158	脳髄黄色腫症	0	218	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	5
159	無 $\beta$ リポタンパク血症	0	219	TNF受容体関連周期性症候群	0
160	脂肪萎縮症	0	220	非典型溶血性尿毒症症候群	1
161	家族性地中海熱	3	221	ブラウ症候群	0
162	高IgD症候群	0	222	家族性良性慢性天疱瘡	0
163	中條・西村症候群	0	223	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19
164	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	224	特発性後天性全身性無汗症	8
165	慢性再発性多発性骨髄炎	0	225	眼皮膚白皮症	0
166	強直性脊椎炎	9	226	肥厚性皮膚骨膜炎	0
167	ベーチェット病	47	227	弾性線維性仮性黄色腫	1
168	特発性拡張型心筋症	56	228	マルファン症候群	0
169	肥大型心筋症	25	229	エーラス・ダンロス症候群	0
170	拘束型心筋症	0	230	メンケス病	0
171	再生不良性貧血	17	231	オクシタル・ホーン症候群	0
172	自己免疫性溶血性貧血	8	232	ウィルソン病	2
173	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0	233	低ホスファターゼ症	0
174	特発性血小板減少性紫斑病	31	234	VATER症候群	0
175	血栓性血小板減少性紫斑病	0	235	那須・ハコラ病	0
176	原発性免疫不全症候群	8	236	ウィーパー症候群	0
177	IgA腎症	50	237	コフィン・ローリー症候群	0
178	多発性嚢胞腎	49	238	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
179	黄色靱帯骨化症	63	239	モワット・ウィルソン症候群	0
180	後縦靱帯骨化症	135	240	ウィリアムズ症候群	0
181	広範脊柱管狭窄症	15	241	ATR-X症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

182	特発性大腿骨頭壊死症	47	242	クルーゾン症候群	1
-----	------------	----	-----	----------	---

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
243	アペール症候群	0	297	アラジール症候群	0
244	ファイファー症候群	0	298	遺伝性膀胱炎	0
245	アントレー・ピクスラー症候群	0	299	嚢胞性線維症	0
246	コフィン・シリス症候群	0	300	IgG4関連疾患	10
247	ロスマンド・トムソン症候群	0	301	黄斑ジストロフィー	0
248	歌舞伎症候群	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
249	多脾症候群	0	303	アッシャー症候群	0
250	無脾症候群	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
251	鰓耳腎症候群	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
252	ウェルナー症候群	1	306	好酸球性副鼻腔炎	41
253	コケイン症候群	0	307	カナバン病	0
254	ブラダー・ウィリ症候群	1	308	進行性白質脳症	0
255	ソトス症候群	0	309	進行性ミオクローヌステんかん	0
256	ヌーナン症候群	0	310	先天異常症候群	0
257	ヤング・シンブソン症候群	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
258	1p36欠失症候群	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
259	4p欠失症候群	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
260	5p欠失症候群	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
261	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
262	アンジェルマン症候群	0	316	カルニチン回路異常症	0
263	スミス・マギニス症候群	0	317	三頭酵素欠損症	0
264	22q11.2欠失症候群	0	318	シトリン欠損症	0
265	エマヌエル症候群	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
266	脆弱X症候群関連疾患	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
267	脆弱X症候群	0	321	非ケトース型高グリシン血症	0
268	総動脈幹遺残症	0	322	β-ケトチオラーゼ欠損症	0
269	修正大血管転位症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
270	完全大血管転位症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
271	単心室症	4	325	遺伝性自己炎症疾患	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	326	大理石骨病	4
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	1
274	骨形成不全症	0	328	前眼部形成異常	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	329	無虹彩症	0
276	軟骨無形成症	1	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	0
277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	4
278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0	335	ネフロン癆	1
282	先天性赤血球形成異常性貧血	0	336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
283	後天性赤芽球癆	0	337	ホモシステニン尿症	2
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
285	ファンconi貧血	0			
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0			
287	エプスタイン症候群	0			
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0			
289	クロンカイト・カナダ症候群	2			
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0			
291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0			
292	総排泄腔外反症	0			
293	総排泄腔遺残	0			
294	先天性横隔膜ヘルニア	0			
295	乳幼児肝巨大血管腫	0			
296	胆道閉鎖症	1			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	139
合計患者数(人)	3371

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・ハイリスク分娩等管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・術後疼痛管理チーム加算
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1入院基本料)、精神病棟(10対1入院基本料) 告示注11入院栄養管理体制加算	・後発医薬品使用体制加算2
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・診療録管理体制加算1	・データ提出加算2
・医師事務作業補助体制加算2(30対1)	・入退院支援加算1 告示注7入院時支援加算、告示注8総合機能評価加算
・急性期看護補助体制加算50対1 告示注2夜間100対1急性期看護補助体制加算 告示注3夜間看護体制加算、告示注4看護補助体制充実加算	・認知症ケア加算2
・看護職員夜間12対1配置加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・排尿自立支援加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・地域歯科診療支援病院入院加算
・放射線治療病室管理加算 (治療用放射性同位元素による場合) (密封小線源による場合)	・特定集中治療室管理料2 告示注1算定上限日数に関する基準、告示注2小児加算 告示注4早期離床・リハビリテーション加算 告示注5早期栄養介入管理加算
・緩和ケア診療加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1 告示注3早期離床・リハビリテーション加算 告示注4早期栄養介入管理加算
・精神科身体合併症管理加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料 告示注4早期栄養介入管理加算
・精神科リエゾンチーム加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 1 母体・胎児集中治療室管理料 2 新生児集中治療室管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・栄養サポートチーム加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料2 告示注2プレイルーム加算
・感染対策向上加算1 告示注2指導強化加算	・短期滞在手術等基本料1
・患者サポート体制充実加算	・看護職員処遇改善評価料62
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・入院時食事療養(Ⅰ)

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・椎間板内酵素注入療法
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・腫瘍脊椎骨全摘術
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・がん患者指導管理料イ	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者指導管理料ロ	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・がん患者指導管理料ハ	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)
・がん患者指導管理料ニ	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・外来緩和ケア管理料	・角膜移植術(内皮移植加算)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法))及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・小児運動器疾患指導管理料	・緑内障手術(濾過再建術(needle法))
・婦人科特定疾患治療管理料	・網膜再建術
・腎代替療法指導管理料	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・一般不妊治療管理料	・人工中耳植込術
・生殖補助医療管理料1	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・下肢創傷処置管理料	・耳管用補綴材挿入術
・外来放射線照射診療料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・外来腫瘍化学療法診療料1	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・連携充実加算	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・ニコチン依存症管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・がん治療連携計画策定料	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・外来排尿自立指導料	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・薬剤管理指導料	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料2	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・医療機器安全管理料(歯科)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・歯科治療時医療管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・胸腔鏡下弁形成術
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・胸腔鏡下弁置換術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下式連続式グルコース測定	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(腹腔鏡下によるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・遺伝学的検査	・経皮的中隔心筋焼灼術
・染色体検査の注2に規定する施設基準	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・骨髄微小残存病変量測定	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・BRCA1/2遺伝子検査	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・がんゲノムプロファイリング検査	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術
・先天性代謝異常症検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体	・大動脈バルーンパイピング法(IABP法)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・補助人工心臓
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・経皮的下肢動脈形成術
・検体検査管理加算(I)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・検体検査管理加算(IV)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・胎児心エコー法	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工臓器検査、人工臓器療法	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下肝切除術
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・生体部分肝移植術
・単線維筋電図	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・神経学的検査	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・補聴器適合検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・全視野精密網膜電図	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ロービジョン検査判断料	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・小児食物アレルギー負荷検査	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内服・点滴誘発試験	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経気管支凍結生検法	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・口腔細菌定量検査	・同種死体腎移植術
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・生体腎移植術
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経道尿)
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・精密触覚機能検査	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・睡眠時歯科筋電図検査	・精巣内精子採取術
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・歯科画像診断管理加算1	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下仙骨腫固定手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・外来化学療法加算1	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・無菌製剤処理料	・胎児輸血術及び臍帯穿刺
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・体外式膜型人工肺管理料
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術



(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・輸血管理料Ⅰ
・がん患者リハビリテーション料	・輸血適正使用加算
・歯科口腔リハビリテーション料2	・同種クリオプレシピテート作製術
・経頭蓋磁気刺激療法	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・療養生活継続支援加算	・歯周組織再生誘導手術
・認知療法・認知行動療法1	・手術時歯根面レーザー応用加算
・精神科作業療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・歯根端切除手術の注3
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・レーザー機器加算
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・医療保護入院等診療料	・麻酔管理料(Ⅱ)
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・歯科麻酔管理料
・多血小板血漿処置	・放射線治療専任加算
・硬膜外自家血注入	・外来放射線治療加算
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・高エネルギー放射線治療
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・一回線量増加加算
・人工腎臓	・強度変調放射線治療(IMRT)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・定位放射線治療
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・保険医療機関間の連携による病理診断
・手術用顕微鏡加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・デジタル病理画像による病理診断
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・病理診断管理加算2
・歯科技工加算1及び2	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・センチネルリンパ節加算	・口腔病理診断管理加算2
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・歯科矯正診断料
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	20回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	19例
	剖検率(%)	10.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補助元又は委託元	補助元又は委託元
動脈硬化における血管部の微小炎症の検出法と制御法の開発	佐田 政隆	循環器内科	¥7,800,000	補 委	日本医療研究開発機構
四国における未診断疾患への包括的取り組み	和泉 唯信	脳神経内科	¥7,020,000	補 委	日本医療研究開発機構
HMSN-Pモデルマウスを用いた遺伝子治療開発	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,950,000	補 委	日本医療研究開発機構
レジストリ連携による神経変性疾患iPS細胞コホートの構築と整備	和泉 唯信	脳神経内科	¥5,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
トライアルレディコホート構築に向けた近位筋優位遺伝性運動感覚ニューロパチー(HMSN-P)のレジストリ研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
薬事的開発、治験調整医師としての治験と臨床研究の実施	和泉 唯信	脳神経内科	¥2,600,000	補 委	日本医療研究開発機構
医療ビッグデータ解析、臨床薬理学と細菌学の融合による薬剤耐性細菌感染症に対する新規治療法開発プラットフォームの構築	石澤 啓介	薬剤部	¥9,620,000	補 委	日本医療研究開発機構
スーパーエンハンサー制御遺伝子群を標的にする新規治療薬の開発	原田 武志	血液内科	¥2,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
生殖補助医療における出生児の長期予後と新規医療技術の影響に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥12,048,699	補 委	日本医療研究開発機構
高齢者難治性骨髄疾患を担う神経ネットワークの探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	安倍 正博	血液内科	¥7,800,000	補 委	日本医療研究開発機構
もやもや病の出血性脳卒中予防と長期予後改善を目指す多施設共同研究	高木 康志	脳神経外科	¥260,000	補 委	日本医療研究開発機構
生殖・周産期・小児期に関わるリンケージデータベースの構築	岩佐 武	産科婦人科	¥692,000	補 委	日本医療研究開発機構
家族性大腸腺腫症の重症化リスク低減手法の実用化を目指した臨床介入研究	高山 哲治	消化器内科	¥2,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
自殺ポリジェニックリスクスコアを用いた精神疾患患者の自殺リスク予測、自殺ポリジェニックリスクスコアによる自殺リスク予測についての倫理的課題の検討	沼田 周助	精神科神経科	¥520,000	補 委	日本医療研究開発機構
多施設における血中分子の測定における課題と対策	沼田 周助	精神科神経科	¥2,210,000	補 委	日本医療研究開発機構
精神科診療ガイドラインの講習資料の作成と改訂	沼田 周助	精神科神経科	¥390,000	補 委	日本医療研究開発機構
統合失調症の早期診断のエビデンスの創出	沼田 周助	精神科神経科	¥3,250,000	補 委	日本医療研究開発機構
肝癌における治療抵抗性メカニズムに関する研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥910,000	補 委	日本医療研究開発機構

女性ホルモンの影響による疾病の予防・治療に資するライフコース研究	安井 敏之	産科婦人科	¥390,000	補 委	日本医療研究開発機構
難治性がんを標的とした先端的がん特異的抗体創製基盤技術開発とその医療応用	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥5,980,000	補 委	日本医療研究開発機構
自己脂肪組織より精製した脂肪由来幹細胞から製造したinsulin producing cell自家移植による次世代の1型糖尿病治療法確立に対する医師主導治験	池本 哲也	安全管理部	¥84,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
多分野・多領域・多地域を集約した日本発新規医療技術の研究開発 シーズA259「メディカルデータベースを活用した新規抗がん剤誘発性末梢神経障害治療戦略の確立」	相澤 風花	薬剤部	¥3,206,250	補 委	日本医療研究開発機構
日本全地域で心不全診療連携を最適化するAI実装DtoDシステムの開発と実用化	楠瀬 賢也	循環器内科	¥10,603,970	補 委	日本医療研究開発機構
臨床研究用装置の治療効果・層別化に関する研究	佐藤 豪	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥325,000	補 委	日本医療研究開発機構
2型糖尿病の発症予防を目指すヘルスケアサービスの適正評価確立のための研究	松久 宗英	糖尿病対策センター	¥1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構
CBCT画像からの正確かつ迅速な顎骨のオートセグメンテーション手法の開発	渡邊 佳一郎	矯正歯科	¥2,340,898	補 委	科学技術振興機構
標準的な生殖医療の知識啓発と情報提供のためのシステム構築に関する研究	苛原 稔	産科婦人科	¥15,000,000	補 委	厚生労働省
性差にもとづく更年期障害の解明と両立支援開発の研究	安井 敏之	産科婦人科	¥7,000,000	補 委	厚生労働省
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	和泉 唯信	脳神経内科	¥800,000	補 委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	原田 雅史	放射線診断科	¥800,000	補 委	厚生労働省
運動失調症の医療水準、患者QOLの向上に資する研究班	和泉 唯信	脳神経内科	¥700,000	補 委	厚生労働省
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	和泉 唯信	脳神経内科	¥650,000	補 委	厚生労働省
ホルモン受容機構異常に関する調査研究	福本 誠二	内分泌・代謝内科	¥550,000	補 委	厚生労働省
もやもや病(ウイリス動脈輪閉塞症)における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	高木 康志	脳神経外科	¥500,000	補 委	厚生労働省
オーダーメイドな肝炎ウイルス感染防止・重症化予防ストラテジーの確立に資する研究	河野 豊	消化器内科	¥400,000	補 委	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥400,000	補 委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥300,000	補 委	厚生労働省
小児期発症の希少難治性肝胆疾患における医療水準並びに患者QOLの向上のための調査研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥300,000	補 委	厚生労働省

放射線療法の提供体制構築に資する研究	生島 仁史	放射線治療科	¥300,000	補委	厚生労働省
行動科学を基盤とした科学的根拠に基づく臓器・組織移植啓発モデルの構築に関する研究	島田 光生	消化器・移植外科	¥250,000	補委	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	安倍 正博	血液内科	¥200,000	補委	厚生労働省
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	原田 雅史	放射線診断科	¥200,000	補委	厚生労働省
美容医療における医療安全を確保し、医療安全に係る諸制度との連携を実装して安全な美容医療のシステムを構築するための研究	橋本 一郎	形成外科・美容外科	¥120,000	補委	厚生労働省
ナノマテリアルの短期吸入曝露等による免疫毒性に関するin vitro/in vivo評価手法開発のための研究	石丸 直澄	病理部	¥2,900,000	補委	厚生労働省
ナノマテリアル吸入曝露影響評価のための効率的慢性試験法の開発に関する研究	石丸 直澄	病理部	¥2,600,000	補委	厚生労働省
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥400,000	補委	厚生労働省
臓器間コミュニケーションを介した自己免疫疾患発症機序の解明	石丸 直澄	病理部	¥8,840,000	補委	日本学術振興会
シナジー効果の評価系構築と薬理的検証	合田 光寛	薬剤部	¥8,970,000	補委	日本学術振興会
データマイニングと疾患モデルによる感染症と大動脈疾患の包括的な連関解明	石澤 啓介	薬剤部	¥5,460,000	補委	日本学術振興会
カーボネイトアパタイトの高い骨伝導能・骨再生能を細胞の分子メカニズムから解明する	宮本 洋二	口腔外科	¥4,160,000	補委	日本学術振興会
染色体不安定性に着目した大腸癌の抗癌剤耐性機序の解析	高山 哲治	消化器内科	¥7,670,000	補委	日本学術振興会
遺伝子改変マウスと未固定遺体を用いた動脈硬化の新規の病態解明と治療法の開発	佐田 政隆	循環器内科	¥9,360,000	補委	日本学術振興会
肺がん・中皮腫における新たな抗原提示細胞の同定から革新的複合がん免疫療法への展開	西岡 安彦	呼吸器・膠原病内科	¥6,500,000	補委	日本学術振興会
分泌蛋白の網羅解析による骨髄腫の未知の病態形成/予後因子の探索と新規治療の開発	安倍 正博	血液内科	¥7,410,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いた脂肪由来幹細胞からの超高機能肝細胞様細胞の確立	島田 光生	消化器・移植外科	¥7,670,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛に対するBH4代謝経路活性と新規治療法の基盤形成	松香 芳三	かみあわせ補綴科	¥7,280,000	補委	日本学術振興会
感覚機能と社会的繋がりに着目したフレイル発症・進展モデルと口腔機能管理戦略の確立	市川 哲雄	そしやく科	¥7,150,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアの診断と発症予防法の開発を目指した基盤・応用研究	阪上 浩	栄養部	¥9,230,000	補委	日本学術振興会

血管新生阻害剤による有害事象としての大動脈解離発症予防に向けた基盤研究	辻中 海斗	薬剤部	¥370,000	補委	日本学術振興会
シンバスタチンによるオキサリプラチン誘発末梢神経障害予防効果のメカニズム解明	高橋 志門	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
データマイニングを用いた免疫チェックポイント阻害剤耐性克服薬の探索	吉岡 俊彦	薬剤部	¥460,000	補委	日本学術振興会
ビッグデータ解析と基礎研究の融合によるICI治療抵抗性克服へ向けたアプローチ	石田 俊介	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
薬剤性腎障害予防を志向したドラッグリポジショニング研究	神田 将哉	薬剤部	¥460,000	補委	日本学術振興会
大規模医療データベースを基盤としたラモトリギン皮膚障害発現に影響する薬剤の検証	坂東 寛	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータ解析に基づく大動脈解離発症予防候補薬のin vivo薬効評価	近藤 正輝	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
データサイエンスを活用したTKI誘発心機能障害に対する新規予防法開発	生田 賢治	薬剤部	¥460,000	補委	日本学術振興会
大規模医療情報データベースを用いた化学療法に伴う末梢神経障害予防薬の探索	新田 綾香	薬剤部	¥460,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータ解析を活用した多発性硬化症の新規治療薬開発	小川 敦	薬剤部	¥480,000	補委	日本学術振興会
慢性骨髄性白血病長期療養患者においてアルコール摂取が治療効果に及ぼす影響	山川 裕介	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
COVID-19における医薬品適応外使用の安全な実施体制構築に向けた全国実態調査	柴田 高洋	薬剤部	¥470,000	補委	日本学術振興会
リアルワールドデータの統合解析で拓くがん免疫薬物療法の致死的有害事象回避法の構築	岡田 直人	薬剤部	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
腫瘍内免疫療法を用いた新規複合がん免疫療法の効果規定因子を同定する試み	荻野 広和	呼吸器・膠原病内科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
骨格筋脂肪蓄積とダイナペニアにおけるアンドロゲンの作用機序解明	吉田 守美子	内分泌・代謝内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
フィテケカル含有食品エゾウコギによる、新しいNAFLD/NASH治療法の開発	河野 豊	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
軟部腫瘍のアミノ酸代謝解析とアミドプロトン解析に着目したマルチ分子イメージング	新家 崇義	放射線診断科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
放射線治療後の心筋障害に対する早期の定量的評価法の確立と心不全の予知	音見 暢一	放射線診断科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
鋸歯状ポリポーシス症候群の左側及び右側大腸癌の分子生物学的差異の解析	岡本 耕一	消化器内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における新規病態制御因子の臨床的意義と分子機構の解明	栗飯原 賢一	内分泌・代謝内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会

腎NMN輸送体を介した遠位・近位尿管連関の 解明	長谷川 一宏	腎臓内科	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
RNA編集酵素ADARが司る骨髄腫の進展様式と 免疫逃避機構の解明	原田 武志	血液内科	¥1,820,000	補 委	日本学術 振興会
脂肪幹細胞由来Schwann様細胞の骨盤内臓神経 再生促進効果に関する研究	徳永 卓哉	消化器・移植外科	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
自己脂肪由来インスリン産生細胞自家移植にお ける抗原性発現と細胞運命の研究	池本 哲也	安全管理部	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
NASHにおける肝転移抑制の機序解明に関する 研究	山田 眞一郎	消化器・移植外科	¥1,170,000	補 委	日本学術 振興会
Nrf2を介したTAM-cancerクロストークによる肝癌 薬剤耐性機序の解明	高須 千絵	消化器・移植外科	¥1,950,000	補 委	日本学術 振興会
人工知能を用いた食道癌の気管・気管支浸潤の 診断ー診断基準の確立ー	藤原 聡史	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,560,000	補 委	日本学術 振興会
iPS細胞から誘導した気管支肺泡幹細胞～その性 格とオルガノイドを用いた肺再生研究	鳥羽 博明	呼吸器外科	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
吸入麻酔薬のSirtを介した心筋保護作用に対し て高血糖状態が与える影響	角田 奈美	麻酔科	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
脳動静脈奇形における血管内皮のKRAS変異と PAD4活性化の関係	高木 康志	脳神経外科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
糖尿病網膜症の病因におけるCdk5/ERK回路の 役割	三田村 佳典	眼科	¥1,950,000	補 委	日本学術 振興会
老齢性テストステロン低下とAGE上昇に着目した 糖尿病関連歯周炎の治療戦略	成石 浩司	歯周病科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
乳酸菌由来細胞外小胞を用いた歯周病治療戦 略ーM1/M2マクロファージに着目してー	細川 育子	むし歯科	¥1,170,000	補 委	日本学術 振興会
ポリフェノール内包キトサンナノカプセルを用 いた口腔バイオフィルム抑制技術の開発	尾崎 和美	むし歯科	¥1,950,000	補 委	日本学術 振興会
ワサビ含有成分を歯周炎治療に用いるための基 礎的研究～抗炎症作用に着目して～	細川 義隆	むし歯科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
歯科用レジンセメントの通電剥離は万能カー 導電性の向上と維持ー	武川 恵美	高次歯科診療部	¥2,080,000	補 委	日本学術 振興会
口腔顔面痛モデル動物の精油の嗅覚刺激による 痛み刺激の軽減と脳神経メカニズムの解明	井上 美穂	かみあわせ補綴科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
口腔・認知機能Web評価システムの地域展開に よる健口・健康長寿実現戦略	瀬山 真莉子	歯科衛生室	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
歯科再生医療の実現に向けた再生器官サイズ・ 形態形成の分子メカニズムの解明と応用	大島 正充	かみあわせ補綴科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
唾液腺幹/前駆細胞の維持・再生に関わる遺伝子 の同定と新たな口腔乾燥症治療への応用	山村 佳子	口腔外科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会

免疫細胞フェノタイプによるシェーグレン症候群の個別化医療の構築	青田 桂子	口腔内科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛の治療成績を向上する試みー照明の照度・色調は治療成績に影響するのか？ー	桃田 幸弘	口腔内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
小児鼻腔通気障害に対する歯科的治療法の開拓と治療効果の検討	北村 尚正	小児歯科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
オゾン水の歯科医療環境感染予防対策実用化に向けた研究	渡辺 朱理	歯科衛生室	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
ゲーム障害児・者の脳血流動態に関する研究ーNIRSによる脳機能評価ー	森 健治	小児科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
OSA患者のいびきの周波数解析から発生メカニズム解明と新たな口腔内装置開発の試み	安陪 晋	総合歯科診療部	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
腹水濾過濃縮再静注法の発熱機序の解明と発熱予防法の確立	岡久 稔也	消化器内科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
MDB活用による抗がん剤誘発性末梢神経障害予防薬の確立	相澤 風花	薬剤部	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
大規模医療情報を用いた薬剤性心筋炎治療薬の探索および有効性の検証	新村 貴博	総合臨床研究センター	¥910,000	補委	日本学術振興会
慢性骨髄性白血病再発防止を目指した新規治療法の開発	八木 健太	総合臨床研究センター	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
CT撮影における各臓器の医療被曝量の測定と被曝量低減効果の検討	山下 一太	整形外科	¥3,120,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌に対する新規分子標的薬併用化学放射線療法の相乗効果とその機序	田中 宏典	消化器内科	¥2,990,000	補委	日本学術振興会
左側及び右側大腸癌の分子生物学的差異の解析ー個別化及び層別化治療に向けてー	影本 開三	消化器内科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
AIを用いた肺癌の化学療法の治療効果を予測するmiRNAモデルの開発	岡田 泰行	消化器内科	¥3,380,000	補委	日本学術振興会
多種肺線維症マウスモデル間のシングルセル解析データ比較による炎症細胞機能の解析	小山 壱也	呼吸器・膠原病内科	¥2,600,000	補委	日本学術振興会
光受容体Opsin3を介した青色LED光による消化器癌薬剤耐性解除に関する研究	良元 俊昭	消化器・移植外科	¥2,340,000	補委	日本学術振興会
脳内微量出血模倣モデルにおける認知症関連蛋白発現機序の解明と制御	原 慶次郎	脳神経外科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
歯周病病態におけるリポカリン2の機能と作用機序の解明	木戸 理恵	歯周病科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
VEGF産生と抗炎症効果を期待した根尖性歯周炎治療に対するCAPEの発展的研究	蔵本 瞳	むし歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
ポリウレタン・スポンジを気孔形成材とした炭酸アパタイト多孔体の開発と骨再生医療	秋田 和也	口腔外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会



口腔機能不全症の3Dモデル構築とその治療法に関する検討	河原林 啓太	小児歯科	¥3,640,000	補委	日本学術振興会
軟部肉腫薬物療法患者におけるePROモニタリングシステムの開発	土岐 俊一	整形外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
がん化学療法後の全身性免疫炎症病態へのFusobacteriumの役割の解明	中村 信元	血液内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
放射線治療効果を高精度に予測する分子イメージングレディオミクスモデルの開発	生島 仁史	放射線治療科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症の治療方向性を規定する因子の探索	松井 尚子	脳神経内科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
ジストニアの治療ターゲット同定	宮本 亮介	脳神経内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
膵がん幹細胞を標的とした新たな光免疫療法の開発	六車 直樹	消化器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
PAR-2シグナルによる心臓特異的炎症機構の解明と新たな心臓病治療法の開発	植松 悦子	循環器内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
ミトコンドリアターンオーバー制御に基づく糖尿病性腎症新規治療戦略の探索	田蒔 昌憲	腎臓内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
癌微小環境の腫瘍関連マクロファージ・免疫逃避機構を中心とした治療法の開発	森根 裕二	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
胸腺癌に対するエピジェネティックな診断と治療	近藤 和也	呼吸器外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
細胞骨格およびIL-17制御を介したヒト腎血管内皮機能維持機構の解明と麻酔薬作用	川人 伸次	歯科麻酔科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂におけるinflammasome活性化とsirtuinの役割	兼松 康久	脳神経外科	¥780,000	補委	日本学術振興会
メタボリックシンドロームが運動器機能に及ぼす影響と運動療法による改善機序の解明	西良 浩一	整形外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
IL-33発現抑制によるアレルギー性鼻炎の好酸球性炎症の抑制:ダニ動物モデル研究	北村 嘉章	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
内陰部動脈皮膚穿通枝およびそのperforasomeに関する総合的研究	橋本 一郎	形成外科・美容外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
口腔内細菌と内臓脂肪評価による新しい観点からの逆流性食道炎発症メカニズムの解明	曾我部 正弘	消化器内科	¥130,000	補委	日本学術振興会
癌患者の栄養指標としてのBIA-位相角の可能性～赤血球膜脂肪酸との関連性探索～	山田 苑子	栄養部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
スマートセメントのセメント固定式インプラントへの応用	河野 文昭	総合歯科診療部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
におい検知を利用した新たな唾液分泌量と咀嚼能率の同時推定法の開発	後藤 崇晴	そしゃく科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会

超高磁場7T-MRI対応脳動脈瘤コイルの作製	菅田 栄一	歯科放射線科	¥1,040,000	補 委	日本学術 振興会
多孔質炭酸アパタイト・魚コラーゲン複合体をスキャフォールドとした戦略的骨再生治療	工藤 景子	口腔外科	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
歯周炎惹起酸化ストレスに鉄代謝が及ぼす影響と体血管反応性改善のための臨床的戦略	高石 和美	歯科麻酔科	¥1,040,000	補 委	日本学術 振興会
乳歯歯髄組織におけるCCL11の機能解析および新たな歯髄保護再生療法の開発	長谷川 智一	小児歯科	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
医療ビッグデータを活用した薬剤性腎障害予防を目指した最適な支持療法の確立	合田 光寛	薬剤部	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
ジストニアの安静時機能的ネットワークの解明および白質微細構造情報の統合	藤田 浩司	脳神経内科	¥1,170,000	補 委	日本学術 振興会
糸球体上皮細胞障害における転写因子CTCFと腎内RAS活性化の役割検討	漆原 真樹	小児科	¥780,000	補 委	日本学術 振興会
ラマン分光法を用いたALアミロイドーシスに対する迅速診断法の新規開発	三木 浩和	血液内科	¥1,690,000	補 委	日本学術 振興会
赤色LEDによる脂肪由来間葉系幹細胞ADSCから肝細胞様細胞HLCへの分化誘導	齋藤 裕	消化器・移植外科	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
歯周病巣のexosomeによる脳動脈瘤破裂への影響	島田 健司	脳神経外科	¥780,000	補 委	日本学術 振興会
頸部リンパ節転移の超早期検出への挑戦ー転移可視化モデルの樹立と超音波診断法の構築	高橋 章	口腔外科	¥910,000	補 委	日本学術 振興会
ジンジバインを分子標的としたダウン症候群の退行現象に対する新規治療法の開発	中川 弘	小児歯科	¥780,000	補 委	日本学術 振興会
In vivo assayを用いたWnt変異における歯牙欠損症発症機序の解明	泰江 章博	矯正歯科	¥1,170,000	補 委	日本学術 振興会
CT値から算出した気道周囲組織の物性値を用いた小児OSAの原因部位の特定	岩崎 智憲	小児歯科	¥910,000	補 委	日本学術 振興会
診断マーカーとしての細胞外pHマッピングの臨床応用	松元 友暉	放射線診断科	¥260,000	補 委	日本学術 振興会
増殖糖尿病網膜症におけるCdk5とERK回路の関与について	仁木 昌徳	眼科	¥910,000	補 委	日本学術 振興会
骨質評価に関連するmicroRNAの同定	岩脇 有軌	そしゃく科	¥1,430,000	補 委	日本学術 振興会
PDCD4のdouble-faceな役割解明とmicroRNAバイオマーカー確立	柴田 恵理子	腎臓内科	¥780,000	補 委	日本学術 振興会
大規模医療情報と既存承認薬を活用した新たな薬剤性腎障害予防戦略の開発	櫻田 巧	薬剤部	¥1,300,000	補 委	日本学術 振興会
RAS野生型大腸癌細胞株における抗EGFR抗体薬の内在化機序の検討	福家 慧	消化器内科	¥1,040,000	補 委	日本学術 振興会

本邦における循環器疾患の罹患率と予後に与える影響の検討	大櫛 祐一郎	循環器内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
膠芽腫に対するPD-1抗体とCOX-2阻害薬併用効果の作用機序解明	山口 泉	脳神経外科	¥650,000	補委	日本学術振興会
ナローバンドUVBの鼻腔内照射によるアレルギー性鼻炎の治療	神村 盛一郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
マトリックスメタロプロテアーゼに着目したドライマウス治療の開発研究	小野 信二	口腔管理センター	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
臍帯血中特異的IgG4抗体価の評価によるアレルギー疾患予防の検討	苛原 誠	産科婦人科	¥910,000	補委	日本学術振興会
舌骨上筋群の器質的な違いが嚥下機能に与える影響～嚥下障害の新しい評価法の確立～	水頭 英樹	歯科放射線科	¥650,000	補委	日本学術振興会
新規イメージング技術による歯科診断の革命	米倉 和秀	むし歯科	¥520,000	補委	日本学術振興会
LEDを用いた次世代「光」不妊治療の開発	楠原 義人	泌尿器科	¥1,950,000	補委	日本学術振興会
唾液腺ムチンタンパクの糖鎖形成異常を介した自己免疫疾患の新たな発症機序の解明	石丸 直澄	病理部	¥3,250,000	補委	日本学術振興会
IoTとスマートスピーカーを活用した個別化糖尿病自己管理支援プログラムの実証研究	松久 宗英	内分泌・代謝内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
加齢性サルコペニアへの炎症性サイトカインの関与とTAK1阻害による治療法の開発	遠藤 逸朗	内分泌・代謝内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
線維細胞におけるインテグリンを標的とした肺線維症に対する新規抗線維化療法の開発	内藤 伸仁	呼吸器・膠原病内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
鎖肛術後の排便機能障害に対する脂肪由来Schwann様細胞を用いた治療法の開発	石橋 広樹	小児外科・小児内視鏡外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
肝星細胞制御による薬剤耐性肝癌の肝内転移抑制機構の解明	居村 暁	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
自家蛍光顕微鏡画像を用いた肺腺癌浸潤AI予測モデル構築と術中診断への応用	滝沢 宏光	呼吸器外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
抜管時の陽圧換気が呼吸機能に与える影響:経肺圧と電気インピーダンス法による評価	大藤 純	救急集中治療部	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
女性においてアンドロゲンが栄養代謝機能に及ぼす影響とその機序に関する検討	岩佐 武	産科婦人科	¥780,000	補委	日本学術振興会
診療参加型臨床実習に必要なとされる汎用的能力の研究	赤池 雅史	循環器内科	¥780,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸による骨格筋脂肪化抑制を標的とした心不全サルコペニアに対する栄養療法の開発	八木 秀介	循環器内科	¥910,000	補委	日本学術振興会
1日70球の投球数制限で小学生の野球肘を予防できるのか?骨軟骨障害に着目して	松浦 哲也	リハビリテーション部	¥1,040,000	補委	日本学術振興会

糖尿病関連歯周炎における歯周組織細胞由来エクソソームの総合的研究	生田 貴久	歯周病科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
歯周医学における歯周病原細菌由来ベシクルの役割解明と歯周病重症化予防剤の開発	湯本 浩通	歯周病科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
口内法デジタルX線撮影検出器を応用した原子力利用における漏洩放射能検出システム	吉田 みどり	歯科放射線科	¥780,000	補委	日本学術振興会
機能的スクリーニングから独自に選出した新規microRNAによる口腔癌治療の開発	上杉 篤史	口腔外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
特発性下顎頭吸収における骨・軟骨破壊機構とMCP-1の関連性の解明	岩浅 亮彦	矯正歯科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
高齢者の肺炎および口臭予防を目的とした新規口腔環境改善手法の確立	福井 誠	歯科衛生室	¥910,000	補委	日本学術振興会
化学放射線療法時の口腔粘膜炎発生に関する機序の解明と新たな予防及び治療戦略	玉木 直文	歯周病科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
液性検体含有メルカプタンの定量分析法開発への基礎的研究—口臭の疫学調査へ向けて	伊藤 博夫	むし歯科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
高齢者糖尿病関連歯周炎患者のオーラルフレイルリスクバイオマーカーの探索	板東 美香	歯周病科	¥910,000	補委	日本学術振興会
末梢血miRNA発現解析による金属アレルギー疾患の新規診断バイオマーカーの確立	細木 真紀	かみあわせ補綴科	¥520,000	補委	日本学術振興会
プロテインアレイを用いた肝細胞癌に対するレンチニブの新たなバイオマーカーの解明	友成 哲	消化器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
細胞外基質による線維細胞のmiR-21発現制御に着目した肺線維症の新規治療法開発	佐藤 正大	呼吸器・膠原病内科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
肥満手術後腸内細菌叢を用いた新たな肥満治療開発に関する研究	柏原 秀也	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
腫瘍微小環境における肥満細胞・癌関連線維芽細胞をターゲットとした治療法の開発	西 正暁	消化器・移植外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
膝・胆管合流異常におけるNrf2 addictionを介した間質反応の解明	森 大樹	小児外科・小児内視鏡外科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞による気管支の修復メカニズムの解明 iPS細胞による気管支断端癒着予防	坂本 晋一	呼吸器外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
スクロースチンを新規標的のバイオマーカーとした糖尿病関連歯周炎の非侵襲的診断法の開発	稲垣 裕司	歯周病科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
糖尿病関連歯周炎の歯周治療による糖尿病改善効果を指背毛細血管を用いて可視化する	美原 智恵	総合歯科診療部	¥910,000	補委	日本学術振興会
睡眠時低血糖とブラキニズムの関係	大倉 一夫	かみあわせ補綴科	¥650,000	補委	日本学術振興会
セマフォリンを用いた歯科金属アレルギーの病態制御	渡邊 恵	そしやく科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会

microRNAを用いた金属アレルギーによる口腔扁平苔癬の新規診断マーカーの確立	田島 登誉子	かみあわせ補綴科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
Lubricinによる変形性顎関節症に対する新規治療法の開発	栗尾 奈愛	口腔外科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
超遠心法による分画抽出血清のプロテオーム解析を利用した新規硬組織形成誘導法の開発	上田 公子 (山口公子)	小児歯科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
ウィズコロナ時代の遠隔解析による歯科的身元確認法の開発	高野 栄之	口腔管理センター	¥390,000	補委	日本学術振興会
Withコロナに対応した高度オンライン臨床実習システムの構築と効果の検証	伊勢 孝之	循環器内科	¥780,000	補委	日本学術振興会
Deep learningを用いた胸部X線画像における肺高血圧病態分類の取り組み	平田 有紀奈	医療技術部	¥390,000	補委	日本学術振興会
抗PD-L1抗体による腫瘍内血管制御を介した新規腫瘍抑制機序とバイオマーカー解析	三橋 惇志	呼吸器・膠原病内科	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
3D培養腎細胞を用いた腎臓病早期診断法の開発と新規治療薬探索	越智 ありさ	腎臓内科	¥1,170,000	補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症社会認知機能改善プログラムの有効性への内在性オキシトシンの関与	梅原 英裕	精神科神経科・心身症科	¥2,080,000	補委	日本学術振興会
統合失調症におけるDNAメチル化関連遺伝子の発現量と多形について	富岡 有紀子	精神科神経科・心身症科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂におけるエフェロサイトーシスの役割解明	宮本 健志	脳神経外科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
オルガノイドを用いたGAPPSにおける発癌機序の解析	三井 康裕	消化器内科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会
血管内皮細胞障害に着目した新生児急性呼吸窮迫症候群の病態解明と治療法の開発	鈴江 真史	小児科	¥1,040,000	補委	日本学術振興会
カプサイシン軟膏を用いた嚥下性肺炎の予防法の開発:メカニズムの解明と臨床への応用	近藤 英司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	¥130,000	補委	日本学術振興会
全ゲノムシーケンス法による小腸癌遺伝子の網羅的解析と治療薬開発の基盤研究	藤本 将太	消化器内科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
副甲状腺自家蛍光イメージング機器の開発	青山 万理子	食道・乳腺甲状腺外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
薬剤耐性腫瘍における腫瘍関連マクロファージを介した免疫逃避・薬剤耐性機構増強作用	江藤 祥平	消化器・移植外科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
「DDX31」遺伝子改変による尿路上皮癌自然発癌モデルによる免疫複合治療の開発	大豆本 圭	泌尿器科	¥1,820,000	補委	日本学術振興会
核酸受容体が血管の炎症と動脈硬化に与える影響の検討	数藤 久美子	循環器内科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
骨形成環境による多発性骨髄腫の腫瘍進展の抑制:腫瘍抑制性ニッチの分子病態の解明	藤井 志朗	血液内科	¥2,470,000	補委	日本学術振興会

微小環境クロストークによるNr2f2依存を介した肝癌薬剤耐性機序解明に関する研究	寺奥 大貴	消化器・移植外科	¥2,730,000	補委	日本学術振興会
医原性横隔膜損傷の関連因子の解明と予防法の開発	板垣 大雅	ER・災害医療診療部	¥520,000	補委	日本学術振興会
子宮腺筋症の新しいモデルマウスの開発と新しい治療戦略の検討	河北 貴子	産科婦人科	¥910,000	補委	日本学術振興会
滑走運動経路と咀嚼運動経路の差に基づくCAD/CAM冠咬合形態の臨床的検討	大川 敏永	総合歯科診療部	¥260,000	補委	日本学術振興会
連通気孔の制御による自己硬化型 $\beta$ -TCP顆粒セメントの骨再生促進と骨造成への応用	福田 直志	口腔外科	¥2,210,000	補委	日本学術振興会
口腔顔面痛モデルにおけるグリア細胞機能抑制による鎮痛メカニズムの解明	岩浅 匠真	かみあわせ補綴科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
AI技術と口腔内スキャナを利用した顎堤形状推定法の開発	松田 岳	そしゃく科	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
脱落乳歯歯髄幹細胞における機械的刺激の分子制御メカニズムの解明	宮寄 彩	小児歯科	¥1,690,000	補委	日本学術振興会
医療ビッグデータおよびオミクスデータを活用した薬剤性心筋炎に対する治療法の開発	新村 貴博	総合臨床研究センター	¥1,430,000	補委	日本学術振興会
Metabolic surgeryの術後早期血糖上昇抑制に関するメカニズムの検討	和田 佑馬	消化器・移植外科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
骨破壊病変を形成するがんの進展・骨からの血行性転移に於ける骨細胞の関与	谷本 幸多朗	矯正歯科	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
筋痛モデルラットによる咀嚼筋痛受容機構解明ならびに治療法開発の基盤形成	生田目 大介	高次歯科診療部	¥1,560,000	補委	日本学術振興会
超高速・超高解像テラヘルツパルス・フェムト秒断層撮影による歯科医用工学革命	保坂 啓一	むし歯科	¥12,220,000	補委	日本学術振興会
重症筋無力症の治療方向性を規定する因子の探索	松井 尚子	脳神経内科	¥2,272,472	補委	日本学術振興会

計232件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yuichiro Okushi, Kenya Kusunose, Michikazu Nakai 他	循環器内科	Comparison of Direct Oral Anticoagulants for Acute Hospital Mortality in Venous Thromboembolism	Am J Cardiovasc Drugs. 2022 Jul;22(4):407-416	Review
2	Nao Ishii, Kenya Kusunose, Ayu Shono 他	循環器内科	Effects of Radiofrequency Catheter Ablation on Cardiac Reserve Using Preload Stress Echocardiography in Paroxysmal and Persistent Atrial Fibrillation	Am J Cardiol. 2022 Apr;168:71-77	Review
3	Yagi Shusuke, Sata Masataka	循環器内科	Aldosterone plays a pivotal role in dementia	Vas-cog Journal.2022 Apr;(8)5-8	Others
4	Koji Yamaguchi, Tetsuzo Wakatsuki, Tomomi Matsuura 他	循環器内科	Drug-coated balloon angioplasty for severe pulmonary vein stenosis resulting from cryoballoon ablation for atrial fibrillation	J Cardiol Cases.2022 Mar 29; 26(1):35-38	Case report
5	Oyunbileg Bavuu, Daiju Fukuda, Byambasuren Ganbaatar 他	循環器内科	Esaxerenone, a selective mineralocorticoid receptor blocker, improves insulin sensitivity in mice consuming high-fat diet	Eur J Pharmacol. 2022 Sep ;931:175190.	Review
6	Kenya Kusunose, Hirotosugu Yamada, Yoshihito Saijo 他	循環器内科	Clinical course and decision-making in heart failure by preload stress echocardiography: a preliminary study	ESC Heart Fail. 2022 Dec;9(6):4020-4029	Review
7	Tomonori Takahashi, Kenya Kusunose, Shuji Hayashi 他	循環器内科	Isoproterenol loading transesophageal echocardiography in atrial fibrillation	Int J Cardiovasc Imaging. 2023 Mar;39(3):511-518.	Review
8	Yutaka Kawabata, Tetsuzo Wakatsuki, Koji Yamaguchi 他	循環器内科	Association of Microluminal Structures Assessed by Optical Coherence Tomography With Local Inflammation in Adjacent Epicardial Adipose Tissue and Coronary Plaque Characteristics in Fresh Cadavers	Circ J.2023 Jan;87(2):329-335	Review
9	Tomonori Takahashi, Kenya Kusunose, Robert Zheng 他	循環器内科	Association between cardiovascular risk factors and left ventricular strain distribution in patients without previous cardiovascular disease	J Echocardiogr. 2022 Dec;20(4):208-215.	Original Article

10	Ryota Miyamoto, Takayuki Ise, Tomoya Yoshida 他	循環器内科	Endomyocardial biopsy-proven fulminant lymphocytic myocarditis presenting with mid-apical ballooning	Eur Heart J Case Rep. 2023 Mar ;7(3):ytad123	Case report
11	Kenya Kusunose, Yuichiro Okushi, Yoshihiro Okayama 他	循環器内科	Benefits of guideline-directed medical therapy to loop diuretics in management of heart failure	J Med Invest. 2023 Feb;70(1.2):41-53	Review
12	Yutaka Morita, Atsuro Saijo, Hiroshi Nokihara 他	呼吸器・膠原病内科	Radiation therapy induces an abscopal effect and upregulates programmed death-ligand 1 expression in a patient with non-small cell lung cancer.	Thorac Cancer. 2022 Apr;13:1079-82	Case report
13	Takeshi Imakura, Seidai Sato, Tetsu Tomonari 他	呼吸器・膠原病内科	Lenvatinib-induced Interstitial Pneumonia in a Patient with Hepatocellular Carcinoma	Intern Med. 2022 Apr; 61:1211-7	Case report
14	Hirokazu Ogino, Makoto Tobiume, Kozo Kagawa 他	呼吸器・膠原病内科	Radiation-associated Angiosarcoma Presenting as Massive Pleural Effusion	Intern Med. 2022 May; 61:1393-7	Case report
15	Hiroshi Nokihara, Hirokazu Ogino, Atsushi Mitsuhashi 他	呼吸器・膠原病内科	Efficacy of osimertinib in epidermal growth factor receptor-mutated non-small-cell lung cancer patients with pleural effusion.	BMC Cancer, 2022 Jun; 22:597 (オンライン)	Original Article
16	Hiroshi Nokihara, Takashi Kijima, Toshihide Yokoyama 他	呼吸器・膠原病内科	Real-World Treatments and Clinical Outcomes in Advanced NSCLC without Actionable Mutations after Introduction of Immunotherapy in Japan.	Cancers (Basel). 2022 Jun; 14:2846 (オンライン)	Original Article
17	Takumi Sakurada, Hiroshi Nokihara, Tadashi Koga 他	呼吸器・膠原病内科	Prevention of Pemetrexed-Induced Rash Using Low-Dose Corticosteroids: A Phase II Study.	Oncologist. 2022 July; 27:e554-60 (オンライン)	Original Article
18	Yoshitoyo Ueno, Saki Harada, Koji Sato 他	救急集中治療部	Independent lung ventilation for the management of acute allograft rejection after single-lung transplantation for end-stage emphysema.	J Med Invest. 2022 Aug; 69:323-7	Case report
19	Yasuhiko Nishioka, Yuko Toyoda, Ryoko Egashira 他	呼吸器・膠原病内科	Nationwide retrospective observational study of idiopathic dendriform pulmonary ossification: clinical features with a progressive phenotype.	BMJ Open Respir Res. 2022 Sep; 9: e001337 (オンライン)	Original Article
20	Makoto Tobiume, Atsushi Mitsuhashi, Atsuro Saijo 他	呼吸器・膠原病内科	Analysis of the chemotactic factors for tumor-infiltrating fibrocytes and their prognostic significances in lung cancer.	Oncol Lett. 2022 Sep; 24: 417 (オンライン)	Original Article



21	Kozo Kagawa, Seidai Sato, Kazuya Koyama 他	呼吸器・膠原病内科	The lymphocyte-specific protein tyrosine kinase-specific inhibitor A-770041 attenuates lung fibrosis via the suppression of TGF-beta production in regulatory T-cells.	PLOS ONE; 2022 Oct; 17: e0275987 (オンライン)	Original Article
22	Kenji Otsuka, Hiroshi Nokihara, Atsushi Mitsuhashi 他	呼吸器・膠原病内科	Efficacy and safety of second-line chemotherapy for patients with advanced non-small cell lung cancer complicated by interstitial lung disease.	Thorac Cancer. 2022 Nov; 13: 2978-84	Original Article
23	Masaki Hanibuchi, Atsuro Saijo , Atsushi Mitsuhashi 他	呼吸器・膠原病内科	The efficacy of mass screening for chronic obstructive pulmonary disease using screening questionnaires in a medical health check-up population.	Respir Investig. 2022 Nov; 60: 815-21	Original Article
24	Seiya Ichihara, Hirokazu Ogino, Hiroto Yoneda 他	呼吸器・膠原病内科	Immune checkpoint inhibitor-related pneumonitis with atypical radiologic features in a patient with anti-aminoacyl-tRNA synthetase antibody.	Respir Med Case Rep, 2023 Jan; 41:101797 (オンライン)	Case report
25	Masaki Hanibuchi, Atsushi Mitsuhashi, Tatsuya Kajimoto 他	呼吸器・膠原病内科	Clinical significance of fractional exhaled nitric oxide and periostin as potential markers to assess therapeutic efficacy in patients with cough variant asthma.	Respir Investig. 2023 Jan; 61: 16-22	Original Article
26	Momoyo Azuma, Kazunori Oishi, Yukihiro Akeda 他	呼吸器・膠原病内科	Safety and immunogenicity of the sequential administration of PCV13 followed by PPSV23 in pneumococcal vaccine-naïve adults ≥ 65 years of age: the comparison of booster effects by intervals of 0.5 year and 1.0 year.	Vaccine. 2023 Jan; 41: 1042-9	Original Article
27	Na T Nguyen, Atsushi Mitsuhashi, Hirokazu Ogino 他	呼吸器・膠原病内科	S-1 eliminates MDSCs and enhances the efficacy of PD-1 blockade via regulation of tumor-derived Bv8 and S100A8 in thoracic tumor.	Cancer Sci. 2023 Feb; 114:384-98	Original Article
28	Masaki Hanibuch, Atsushi Mitsuhashi, Atsuro Saijo 他	呼吸器・膠原病内科	A case of atopic cough with aphonia showed a prominent response to a histamine H1 receptor antagonist.	J Med Invest. 2023 Jan; 70: 281-4	Case report
29	Atsushi Mitsuhashi, Kazuya Koyama, Hirokazu Ogino 他	呼吸器・膠原病内科	Identification of fibrocyte cluster in tumors reveals the role in antitumor immunity by PD-L1 blockade.	Cell Rep. 2023 Mar; 42: 112162 (オンライン)	Original Article

30	Masahiro Sogabe, Toshiya Okahisa, Miwako Kagawa 他	消化器内科	Influence of alcohol on newly developed metabolic dysfunction-associated fatty liver disease in both sexes: A longitudinal study.	Clin Nutr. 2023 Mar 31; 42(5): 810-816.	Original Article
31	Yasushi Sato, Yasuyuki Okada, Yasuteru Fujino 他	消化器内科	Clinical Outcomes of Comprehensive Genomic Profiling Tests for Gastrointestinal Cancers: Experience from Tokushima University Hospital.	J Med Invest. 2023 Jan;70(1.2):154-159.	Original Article
32	Tetsu Tomonari, Hironori Tanaka, Takahiro Tanaka 他	消化器内科	A case of complete response with rechallengelenvatinib plus transcatheter arterial chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma refractory to multiple molecular-targeted agent treatments.	Clin J Gastroenterol. 2023 Jun; 16(3):438-443.	Case report
33	Tetsu Tomonari, Joji Tani, Chikara Ogawa 他	消化器内科	Multicenter retrospective study of initial treatment outcome and feasibility of initiating dose reduction of cabozantinib in unresectable hepatocellular carcinoma	Hepatol Res. 2023 Feb; 53(2): 172-178	Original Article
34	Tetsu Tomonari, Joji Tani, Yasushi Sato 他	消化器内科	Initial therapeutic results of atezolizumab plus bevacizumab for unresectable advanced hepatocellular carcinoma and the importance of hepatic functional reserve.	Cancer Med. 2023 Feb; 12(3):2646-2657.	Original Article
35	Yoshifumi Kida, Toshiya Okahisa, Yasushi Sato 他	消化器内科	Urokinase-type plasminogen activator blockade ameliorates experimental colitis in mice.	Sci Rep. 2023 Feb; 13(1): 2899.	Original Article
36	Yasuyuki Okada, Fuduan Peng, José Perea 他	消化器内科	Genome-wide methylation profiling identifies a novel gene signature for patients with synchronous colorectal cancer.	Br J Cancer. 2023 Jan; 128(1): 112-120.	Original Article
37	Masahiro Sogabe, Toshiya Okahisa, Miwako Kagawa 他	消化器内科	Influence of Alcohol Consumption on the Development of Erosive Esophagitis in Both Sexes: A Longitudinal Study.	Nutrients. 2022 Nov; 14(22): 4760	Original Article

38	Hironori Wada, Yasushi Sato, Shota Fujimoto 他	消化器内科	Resveratrol inhibits development of colorectal adenoma via suppression of LEF1; comprehensive analysis with connectivity map.	Cancer Sci. 2022 Dec; 113(12): 4374-4384	Original Article
39	Masahiro Sogabe, Toshiya Okahisa, Takeshi Kurihara 他	消化器内科	Comparison of the role of alcohol consumption and qualitative abdominal fat on NAFLD and MAFLD in males and females.	Sci Rep. 2022 Sep; 12(1): 16048.	Original Article
40	Beibei Ma, Hiroyuki Ueda, Koichi Okamoto 他	消化器内科	TIMP1 promotes cell proliferation and invasion capability of right-sided colon cancers via the FAK/Akt signaling pathway.	Cancer Sci. 2022 Dec; 113(12): 4244-4257	Original Article
41	Noriaki Murayama, Koichi Okamoto, Tadahiko Nakagawa 他	消化器内科	miR-144-3p/miR-451a promotes lymphovascular invasion through repression of PTEN/p19 in rectal neuroendocrine tumors.	J Gastroenterol Hepatol. 2022 May; 37(5):919-927.	Original Article
42	Fumika Nakamura, Yasushi Sato, Koichi Okamoto 他	消化器内科	Colorectal carcinoma occurring via the adenoma-carcinoma pathway in patients with serrated polyposis syndrome.	J Gastroenterol. 2022 Apr; 57(4): 286-299.	Original Article
43	Satoshi Teramae, Naoki Muguruma, Koichi Okamoto 他	消化器内科	Cancer risk and genotype-phenotype correlation in Japanese patients with Cowden syndrome.	Int J Clin Oncol. 2022 Apr; 27(4): 639-647	Original Article
44	Yasushi Sato, Koichi Okamoto, Yoshifumi Kida 他	消化器内科	Overview of Chemotherapy for Gastric Cancer.	J Clin Med. 2023 Feb; 12(4): 1336.	Review
45	Yasushi Sato, Koichi Okamoto, Tomoyuki Kawaguchi 他	消化器内科	Treatment Response Predictors of Neoadjuvant Therapy for Locally Advanced Gastric Cancer: Current Status and Future Perspectives.	Biomedicines. 2022 Jul; 10(7): 1614.	Review
46	Megumi Yamasaki, Yasushi Sato, Koichi Okamoto 他	消化器内科	Two cases of anal squamous cell carcinoma achieving complete response after docetaxel + cisplatin + S-1 (DCS) induction chemotherapy followed by chemoradiation.	Clin J Gastroenterol. 2023 Apr;16(2):180-186.	Case report
47	Naoto Okada, Shimizu Taro, Hidenori Ando 他	血液内科	Clinical Impact of Antipolyethylene Glycol (PEG) Antibody in Hematological Patients Administered PEGylated-Granulocyte Colony-Stimulating Factor	Clin Pharmacol Drug Dev. 2023 Jan 28.12(8):826-831	Original Article

48	Takeshi Harada, Hiroto Ohguchi, Asuka Oda 他	血液内科	Novel antimyeloma therapeutic option with inhibition of the HDAC1-IRF4 axis and PIM kinase.	Blood Adv. 2023 Mar 28;7(6):1019-1032.	Original Article
49	Jumpei Teramachi, Hirokazu Miki, Shingen Nakamura 他	血液内科	Myeloma bone disease: pathogenesis and management in the era of new anti-myeloma agents.	J Bone Miner Metab. 2023 Mar 1:1-16. doi: 10.1007/s00774-023-01403-4.	Original Article
50	Naoto Okada, Akikazu Murakami, Masami Sato 他	薬剤部	First reported case of Lachnoanaerobaculum gingivalis bacteremia in an acute myeloid leukemia patient with oral mucositis during high dose chemotherapy.	Anaerobe. 2022 Aug;76:102610.	Original Article
51	Shingen Nakamura, Motoki Sugasaki, Masayoshi Souri 他	血液内科	Autoimmune Acquired Factor XIII/13 Deficiency after SARS-CoV-2 mRNA Vaccination.	Thromb Haemost. 2022 Oct;122(10):1837-1842.	Original Article
52	Tomoyo Hara, Ryoko Uemoto, Akiko Sekine 他	血液内科	Plasma Heparin Cofactor II Activity Is Inversely Associated with Hepatic Fibrosis of Non-Alcoholic Fatty Liver Disease in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus.	J Atheroscler Thromb. 2022 Oct 14. 30(8): 871-883.(オンライン)	Original Article
53	Bingzi Dong, Masahiro Hiasa, Yoshiki Higa 他	血液内科	Osteoblast/osteocyte-derived interleukin-11 regulates osteogenesis and systemic adipogenesis.	Nat Commun. 2022 Nov 23;13(1):7194.	Original Article
54	Yukari Mitsui, Yuto Iizuka, Tomoaki Tanaka 他	血液内科	An attempt to create a treatment algorithm of central adrenal insufficiency using CRH test, DHEA-S and clinical evaluation.	J Med Invest. 2022 Oct;69(3.4):287-293.	Original Article
55	Shotaro Haji, Wataru Sako, Nagahisa Murakami 他	脳神経内科	Serum NfL and CHI3L1 for ALS and parkinsonian disorders in the process of diagnosis.	J Neural Transm (Vienna). 2022 Mar;129(3):301-309	Original Article
56	Koji Fukushima, Naoko Takamatsu, Yuki Yamamoto 他	脳神経内科	Early diagnosis of amyotrophic lateral sclerosis based on fasciculations in muscle ultrasonography: A machine learning approach.	Clin Neurophysiol. 2022 Aug;140:136-144	Original Article
57	Hiroki Yamazaki, Naoko Matsui, Naoko Takamatsu 他	脳神経内科	Application of ultrasound in a case of eosinophilic fasciitis mimicking stiff-person syndrome.	Neuromuscul Disord. 2022 Jul;32(7):590-593	Original Article
58	Yuki Yamamoto, Nobuaki Yamamoto, Yasuhisa Kanematsu 他	脳神経内科	The claw sign predicts first-pass effect in mechanical thrombectomy for cerebral large vessel occlusion in the anterior circulation.	Surg Neurol Int. 2022 Feb 25;13:72	Original Article

59	Ryuji Kajii, Ai Miyashiro, Nori Sato 他	脳神経内科	A Pilot Study of A2NTX, a Novel Low-Molecular-Weight Neurotoxin Derived from Subtype A2 for Post-Stroke Lower Limb Spasticity: Comparison with OnabotulinumtoxinA.	Toxins (Basel). 2022 Oct 28;14(11):739	Original Article
60	Nobuaki Yamamoto, Kazutaka Kuroda, Yuki Yamamoto 他	脳神経内科	Long-sheath Introducer-assisted Revascularization (L-SHARE) Technique for Treating Large-vessel Occlusion by a Giant Clot	2023 Mar 15;62(6):909-913.	Original Article
61	Munkhzaya Chuluunbat, Daiki Matsuda, Koji Fujita 他	脳神経内科	Identification and validation of a gray matter volume network in Alzheimer's disease	Journal of the Neurological Sciences 2022 Sep 15;440:120344.	Original Article
62	Yusuke Osaki, Yuishin Izumi	脳神経内科	Peripheral Neuropathy in RFC1 CANVAS/Spectrum Disorders	Brain Nerve. 2022 Nov;74(11):1281-1286	Review
63	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Kyotaro Fukuta 他	泌尿器科	The patient-side surgeon plays a key role in facilitating robot-assisted intracorporeal ileal conduit urinary diversion in men	J Robot Surg. 2022 Apr;16(2):437-444	Original Article
64	Kyotaro Fukuta, Kiyotaka Iihara, Takahiro Moriyama 他	泌尿器科	Micropapillary Variant of Urothelial Carcinoma in a Hemodialysis Patient	Case Rep Oncol. 2022 Apr 28;15(1):462-468.	Case report
65	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Mitsuki Nishiyama 他	泌尿器科	A case of laparoscopic adhesiotomy for urodynia caused by bladder wall adhesion to the anterior abdominal wall after vesicoscopic ureteral reimplantation for vesicoureteral reflux	Urol Case Rep. 2022 Sep 7;45:102216.	Case report
66	Keito Shiozaki, Yasuo Kawanishi, Yutaro Sasaki 他	泌尿器科	Clinical application of virtual imaging guided Robot-assisted partial nephrectomy	J Med Invest. 2022;69(3.4):237-243.	Original Article
67	Kouki Tada, Kei Daizumoto, Masayuki Takahashi 他	泌尿器科	Recurrent multiple liver metastases of clear cell renal cell carcinoma with a significant response to sunitinib after nivolumab treatment	IJU Case Rep. 2022 Oct 18;6(1):41-44.	Case report
68	Keisuke Ozaki, Tomoya Fukawa, Takashi Kawanaka 他	泌尿器科	Appropriate management reduces radiation exposure in daily urological practice	Int J Urol. 2022 Oct;29(10):1207-1212.	Original Article
69	Fumiya Kadoriku, Yutaro Sasaki, Kyotaro Fukuta 他	泌尿器科	A propensity score matching study on robot-assisted radical cystectomy for older patients: comparison of intracorporeal ileal conduit and cutaneous ureterostomy	BMC Urol. 2022 Nov 7;22(1):174.	Original Article

70	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Keisuke Hashimoto 他	泌尿器科	Efficacy of the Mercedes-Benz closure technique for vaginal reconstruction in female robot-assisted radical cystectomy	Asian J Endosc Surg. 2023 Jan;16(1):23-27.	Original Article
71	Yutaro Sasaki, Masayuki Takahashi, Kyotaro Fukuta 他	泌尿器科	Assistant guide:A novel device for ureteral stent placement in robot-assisted intracorporeal ileal conduit	Int J Med Robot.02 Mar 2023, 19(4):e2513 (オンライン)	Original Article
72	Keisuke Ozaki, Tomoya Fukawa, Kei Daizumoto 他	泌尿器科	The impact of nutritional status and changes of body composition on the prognosis of metastatic renal cell carcinoma patients	J Med Invest. 01 Jan 2023, 70(1.2):80-87	Original Article
73	Yoshiteru Ueno, Tomoharu Fukumori, Yoshito Kusuhara 他	泌尿器科	Prostate-specific Antigen Levels Following Brachytherapy Impact Late Biochemical Recurrence in Japanese Patients With Localized Prostate Cancer	In Vivo. 2023 Mar-Apr;37(2):738-746.	Original Article
74	Madoka Kohno, Anayt Ulla, Rina Taniguchi 他	泌尿器科	Daily Dietary Supplementation with Steamed Soybean Improves Muscle Volume and Strength in Healthy People Lacking Exercise	J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo). 2022;68(6):521-526	Original Article
75	Anayt Ulla, Kanae Osaki, Md Mizanur Rahmann 他	泌尿器科	Morin improves dexamethasone-induced muscle atrophy by modulating atrophy-related genes and oxidative stress in female mice	Biosci Biotechnol Biochem. 2022 Sep 23;86(10):1448-1458	Original Article
76	Hiroki Mori, Hiroki Ishibashi, Noriko Yokota 他	消化器・移植外科	Risk factors for metachronous contralateral inguinal hernia after laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure for unilateral inguinal hernia in children	Surg Today. 2022 Oct;52(10):1491-1496.	Original Article
77	Shoko Yamashita, Masaaki Nishi, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Gastric carcinoma with lymphoid stroma derived from hamartomatous inverted polyp with osteoclast-like giant cells	International Cancer Conference Journal. 2022 Apr 6;11(3):196-200.	Case report
78	Toshihiro Nakao, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Risk factors for postoperative ileus after diverting loop ileostomy closure	BMC Surg. 2022 Apr 7;22(1):131.	Original Article
79	Yosuke Iwakawa, Kozo Yoshikawa, Koichi Okamoto 他	消化器・移植外科	Four cases of gastric adenocarcinoma and proximal polyposis of the stomach treated by robotic total gastrectomy	Surg Case Rep. 2022 Apr 18;8(1):70.	Case report
80	Masaaki Nishi, Yuma Wada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Pincer Approach to Gastrosplenic Ligament in Robotic Total Gastrectomy for Gastric Cancer	Journal of Gastrointestinal Surgery. 2022 Jul;26(7):1552-1555.	Original Article

81	Toshiaki Yoshimoto, Mitsuo Shimada, Takuya Tokunaga 他	消化器・移植外科	Blue light irradiation inhibits the growth of colon cancer and activation of cancer-associated fibroblasts	Oncol Rep. 2022 May;47(5):104.	Original Article
82	Toshihiro Nakao, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Vascular variations encountered during laparoscopic surgery for transverse colon, splenic flexure, and descending colon cancer: a retrospective cohort study	BMC Surg. 2022 May 10;22(1):170.	Original Article
83	Shuhai Chen, Masaaki Nishi, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Polymethoxylated flavone sudachitin is a safe anticancer adjuvant that targets glycolysis in cancer associated fibroblasts	Oncology Letters. 2022 May;24 236	Original Article
84	Masaaki Nishi, Mistuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	ASO Author Reflections: The Role of Robotic Gastrectomy for Gastric Cancer	Ann Surg Oncol. 2022 Jun;29(6):3896-3897.	Original Article
85	Masaaki Nishi, Mistuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Propensity Score-Matched Analysis of the Short- and Long-Term Outcomes of Robotic Versus Laparoscopic Gastrectomy for Gastric Cancer	Ann Surg Oncol. 2022 Jun;29(6):3887-3895.	Original Article
86	Takuya Tokunaga, Maki Sugimoto, Yu Saito 他	消化器・移植外科	Intraoperative holographic image-guided surgery in a transanal approach for rectal cancer	Langenbecks Arch Surg. 2022 Sep;407(6):2579-2584.	Original Article
87	Yuma Wada, Masaaki Nishi, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Lymph node response to neoadjuvant chemotherapy as an independent prognostic factor in gastric cancer	Oncology Letters. 2022 Sep 24:415	Original Article
88	Kozo Yoshikawa, Mitsuo Shimada, Takuya Tokunaga 他	消化器・移植外科	Short-term outcomes of laparoscopic/robotic gastrectomy compared with open gastrectomy for advanced gastric cancer following chemotherapy	J.Med.Invest. 2022 August 69:261-265,	Original Article
89	Yuma Wada, Masaaki Nishi, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Preoperative nutrition and exercise intervention in frailty patients with gastric cancer undergoing gastrectomy	Int J Clin Oncol. 2022 Sep;27(9):1421-1427.	Original Article
90	Toshihiro Nakao, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Computed tomography texture analysis for the prediction of lateral pelvic lymph node metastasis of rectal cancer	World J Surg Oncol. 2022 Sep 3;20(1):281.	Original Article

91	Toshihiro Nakao, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Impact of osteopenia and neutropenia in patients with colorectal cancer treated with FOLFOXIRI: a retrospective cohort study	Int J Clin Oncol. 2022 Sep;27(9):1439-1449.	Original Article
92	Chie Takasu, Masaaki Nishi, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	Role of IDO expression in patients with locally advanced rectal cancer treated with preoperative chemoradiotherapy	BMC Cancer. 2022 Dec 5;22(1):1263.	Original Article
93	Yuma Wada, Mitsuo Shimada, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	A blood-based noninvasive miRNA signature for predicting survival outcomes in patients with intrahepatic cholangiocarcinoma	Br J Cancer. 2022 May;126(8):1196-1204.	Original Article
94	Shuhai Chen, Tetsuya Ikemoto, Takuya Tokunaga 他	消化器・移植外科	Newly Generated 3D Schwann-Like Cell Spheroids From Human Adipose-Derived Stem Cells Using a Modified Protocol	Cell Transplant. Jan-Dec 2022;31 accepted March 23	Original Article
95	Shohei Okikawa, Yuji Morine, Yu Saito 他	消化器・移植外科	Inhibition of the VEGF signaling pathway attenuates tumor-associated macrophage activity in liver cancer	Oncol Rep. 2022 Apr;47(4):71.	Original Article
96	Kazunori Tokuda, Tetsuya Ikemoto, Shoko Yamashita 他	消化器・移植外科	Syngeneically transplanted insulin producing cells differentiated from adipose derived stem cells undergo delayed damage by autoimmune responses in NOD mice	Sci Rep. 2022 Apr 7;12(1):5852.	Original Article
97	Yu Saito, Maki Sugimoto, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Intraoperative support with three-dimensional holographic cholangiography in hepatobiliary surgery	Langenbecks Arch Surg. 2022 May ;407(3):1285-1289.	Original Article
98	Yu Saito, Satoru Imura, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	A Hepatectomy Based on a Hybrid Concept of Portal Perfusion of Anterior Segment and Venous Drainage Area of Superior Right Hepatic Vein	Am Surg. 2022 Jun;88(6):1077-1083.	Original Article
99	Baasansvren Selenge, Shinichiro Yamada, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Impact of L-type amino acid transporter 3 on the prognosis of hepatocellular carcinoma	Oncol Lett. 2022 Sep 30;24(5):418.	Original Article
100	Yuji Morine, Tohru Utsunomiya, Hisami Yamanaka-Okumura 他	消化器・移植外科	Essential amino acids as diagnostic biomarkers of hepatocellular carcinoma based on metabolic analysis	Oncotarget. 2022 Nov 22;13:1286-1298.	Original Article



101	Katsuki Miyazaki, Yu Saito, Mayuko Ichimura-Shimizu 他	消化器・移植外科	Defective endoplasmic reticulum stress response via X box-binding protein 1 is a major cause of poor liver regeneration after partial hepatectomy in mice with non-alcoholic steatohepatitis	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Dec;29(12):1241-1252.	Original Article
102	Hiroki Mori, Takayuki Noma, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Carcinogenic risk in the biliary epithelium of children with congenital biliary dilatation via the DNA damage repair pathway	Surg Today. 2023 Feb 24. doi: 10.1007/s00595-023-02664-2.	Original Article
103	Yosuke Iwakawa, Masaaki Nishi, Yuma Wada 他	消化器・移植外科	Pleomorphic type undifferentiated gastric sarcoma, report of a case	Clin J Gastroenterol. 2023 Feb;16(1):20-25.	Case report
104	Shohei Okikawa, Hideya Kashihara, Mitsuo Shimada 他	消化器・移植外科	Effect of duodenal-jejunal bypass on diabetes in the early postoperative period	Sci Rep. 2023 Feb 1;13(1):1856.	Original Article
105	Hideya Kashihara, Mitsuo Shimada, Kozo Yoshikawa 他	消化器・移植外科	The Impact of the Pre-operative Neutrophil-lymphocyte Ratio as the Predictive Marker of Post-operative Weight Loss and Improving Diabetes in Sleeve Gastrectomy	J Med Invest. 2023; Feb 1.2):140-144.	Original Article
106	Kozo Yoshikawa, Mitsuo Shimada, Takuya Tokunaga 他	消化器・移植外科	Stapler insertion angle toward the esophagus reduces the incidence of early postoperative Roux stasis syndrome after distal gastrectomy in minimally invasive surgery	BMC Surg. 2023 Mar 11;23(1):54.	Original Article
107	Katsuki Miyazaki, Yuma Wada, Keisuke Okuno 他	消化器・移植外科	An exosome-based liquid biopsy signature for pre-operative identification of lymph node metastasis in patients with pathological high-risk T1 colorectal cancer	Mol Cancer. 2023 Jan 6;22(1):2.	Original Article
108	Katsuki Miyazaki, Yuji Morine, Caiming Xu 他	消化器・移植外科	Curcumin-Mediated Resistance to Lenvatinib via EGFR Signaling Pathway in Hepatocellular Carcinoma	Cells. 2023 Feb 14;12(4):612.	Original Article
109	Shinichiro Yamada, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Impact of apparent diffusion coefficient on prognosis of early hepatocellular carcinoma: a case control study	BMC Surg. 2023 Jan 11;23(1):6.	Original Article
110	Shinichiro Yamada, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Inhibitory effect of non-alcoholic steatohepatitis on colon cancer liver metastasis	Eur J Surg Oncol. 2023 Feb;49(2):410-415.	Original Article

111	Shinichiro Yamada, Yuji Morine, Satoru Imura 他	消化器・移植外科	Effect of daikenchuto (TU-100) on carcinogenesis in non-alcoholic steatohepatitis	J Med Invest. 2023; Feb 70(1.2):66-73.	Original Article
112	Yuji Morine, Yu Saito, Shinichiro Yamada 他	消化器・移植外科	Multiplication of tumor maximum diameter and number as a new surgical indicator for Barcelona Clinic Liver Cancer intermediate-stage hepatocellular carcinoma	Hepato Res. 22 Feb 2023, 53(6):531-539. doi: 10.1111/hepr.13887.	Original Article
113	Hiroki Teraoku, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Impact of pancreatic resection in patients with liver cirrhosis	J Med Invest. 2023; Feb 70(1.2):189-194.	Original Article
114	Hiroki Teraoku, Yuji Morine, Tetsuya Ikemoto 他	消化器・移植外科	Short- and long-term outcomes of pancreatectomy in patients with hemodialysis	J Med Invest. 2023; Feb 70(1.2):105-109.	Review
115	Baasansuren Selenge, Shinichiro Yamada, Yuji Morine 他	消化器・移植外科	Impact of L-type amino acid transporter 1 on intrahepatic cholangiocarcinoma	J Med Invest. 2023; Feb 70(1.2):160-165	Original Article
116	Katsuki Miyazaki, Caiming Xu, Mitsuo Shimada 他	消化器・移植外科	Curcumin and Andrographis Exhibit Anti-Tumor Effects in Colorectal Cancer via Activation of Ferroptosis and Dual Suppression of Glutathione Peroxidase-4 and Ferroptosis Suppressor Protein-1	Pharmaceuticals (Basel). 2023 Mar 2;16(3):383.	Original Article
117	Yoshiaki Kitamura, Seichiro Kamimura, Tatsuya Fujii 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Long-term changes in serum squamous cell carcinoma antigen levels after surgery in patients with sinonasal inverted papilloma.	Auris Nasus Larynx 2022 Aug; 49: 697-702	Original Article
118	Takahiro Azuma, Teruhiko Fuchigami, Katsuhiko Nakamura 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	New method to evaluate sequelae of static facial asymmetry in patients with facial palsy using three-dimensional scanning analysis	Auris Nasus Larynx 2022 Oct;49(5):755-761	Original Article
119	Takashi Inokuchi, Fumitake Tezuka, Kazuta Yamashita 他	整形外科	Transforaminal Full-endoscopic Discectomy for Gas-containing Herniated Nucleus Pulposus at L5-S1 Under Local Anesthesia: A case report	J Med Invest. 69;3.4:328-331.2022 Aug .	Case report
120	Yasuaki Tamaki, Tomohiro Goto, Keizo Wada 他	整形外科	Increased hip flexion angle and protrusion of the anterior acetabular component can predict symptomatic iliopsoas impingement after total hip arthroplasty: a retrospective study.	Hip international. Online ahead of print..2022 Oct 9.	Original Article

121	Yasuaki Tamaki, Tomohiro Goto, Joji Iwase 他	整形外科	Contributions of the ischiofemoral ligament, iliofemoral ligament, and conjoined tendon to hip stability after total hip arthroplasty: a cadaveric study.	Journal of Orthopaedic Research. 40;12:2885-2893..2022 Dec	Original Article
122	Tetsuya Okahisa, Tetsuya Matsuura, Ken Tomonari 他	整形外科	Between-day reliability and minimum detectable change of the Conventional Gait Model 2 and Plug-in Gait Model during running	Gait and Posture. 100:171-178.2023 Feb.	Original Article
123	Masatoshi Morimoto, Ryo Okada, Kosuke Sugiura 他	整形外科	Low Back Pain and Lumbar Degeneration in Japanese Professional Baseball Players.	Orthop J Sports Med. 2022 Oct 12;10(10):23259671221125513.eCollection	Original Article
124	Masatoshi Morimoto, Kosuke Sugiura, Kosaku Higashino 他	整形外科	Association of spinal anomalies with spondylolysis and spina bifida occulta.	Eur Spine J. 31;4:858-864. 2022 Apr	Original Article
125	Masatoshi Morimoto, Shogo Tomiyama, Makoto Takeuchi 他	整形外科	Anterior longitudinal ligament avulsion fracture when changing position from lateral to prone during Extreme Lateral Interbody Fusion: A Case Report	Spine Surg Relat Res. 7;1:103-105.2022 Jul 11.	Case report
126	Yugen Fujii, Toshihiko Nishisho, Fumitake Tezuka 他	整形外科	Hemangioblastoma of the Cauda Equina : A Case Report and Review of the Literature	J Med Invest. 69;3.4:312-315.2022	Case report
127	Kosuke Sugiura, Katsuya Hirasaka, Tasuku Maeda 他	整形外科	MuRF1 deficiency prevents age-related fat weight gain, possibly through accumulation of PDK4 in skeletal muscle mitochondria in older mice.	J Orthop Res. 40;5:1026-1038.2022 May	Original Article
128	Fumio Hayashi, Masatoshi Morimoto, Kosaku Higashino 他	整形外科	Myofibroblasts are increased in the dorsal layer of the hypertrophic ligamentum flavum in lumbar spinal canal stenosis.	Spine J. 22;4:697-704.2022 Apr	Original Article
129	Koichi Sairyo, Kazuta Yamashita, Fumitake Tezuka 他	整形外科	Full-endoscopic intradiscal surgery: state of the art.	J Min Invasive Spine Surg Tech. 7;1:84-89.2022 Apr 23.	Review
130	Yoshihiro Ishihama, Masatoshi Morimoto, Fumitake Tezuka 他	整形外科	Full-Endoscopic Trans-Kambin Triangle Lumbar Interbody Fusion: Surgical Technique and Nomenclature.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 83;4:308-313.2022 Jul.	Original Article

131	Ichiro Tonogai, Yoshihiro Tsuruo, Koichi Sairyo	整形外科	Relationship Between the Lateral Plantar Artery and the Retrograde Intramedullary Nail During Tibiotalar and Subtalar Arthrodesis: A Fresh Cadaveric Study.	Foot Ankle Spec. 15;6:551-555.2022 Dec.	Original Article
132	Ichiro Tonogai, Yoshihiro Tsuruo, Koichi Sairyo	整形外科	Implications of Dorsalis Pedis Artery Anatomical Variants for Dorsal Midfoot Surgery.	Foot Ankle Int. 43;7:942-947.2022 Jul.	Original Article
133	Kazuta Yamashita, Kosaku Higashino, Hiroaki Hayashi 他	整形外科	Author Correction: Direct measurement of radiation exposure dose to individual organs during diagnostic computed tomography examination.	Sci Rep. 12;1:5035.2022 Mar 23.	Letter
134	Yasuyuki Omichi, Noriaki Mima, Ryo Okada 他	整形外科	Identifying vertebral fractures in the Japanese population using the trabecular bone score: a cross-sectional study.	BMC Musculoskelet Disord. 23;1:976.2022 Nov 11.	Original Article
135	Takuya Kasamasu, Yuko Ishida, Masahiro Sato 他	整形外科	Rates of Return to Sports and Recurrence in Pediatric Athletes after Conservative Treatment for Lumbar Spondylolysis.	Spine Surg Relat Res. 6;5:540-544.2022 Mar 4.	Original Article
136	Yohei Takahashi, Takashi Kaji, Toshiyuki Yasui 他	整形外科	Ultrasonographic changes in quadriceps femoris thickness in women with normal pregnancy and women on bed rest for threatened preterm labor.	Sci Rep. 12;1:17506.2022 Oct 19.	Original Article
137	Kiyoshi Yagi, Kazuya Kishima, Fumitake Tezuka 他	整形外科	A Technical Pitfall of Decompression with Direct Repair of a Ragged Edge Using the Smiley-Face Rod Method : A Case Report.	J Med Invest. 69;3, 4:308-311.2022.Jan	Case report
138	Ichiro Tonogai	整形外科	Flexor tenotomy for mallet toe with penetration of the middle phalanx head by dual-component intramedullary implant following proximal interphalangeal arthrodesis.	Int J Surg Case Rep. 91:106703.2022 Feb.	Case report
139	Satoshi Sumida, Shun-Ichi Toki, Taisuke Mori 他	整形外科	ZFTA::RELA fusion in a distinct liposarcoma morphologically overlapping with chondroid lipoma	Genes Chromosomes Cancer. 62;2:101-106.2023 Feb.	Original Article

140	Shunichi Toki, Toshihiko Nishisho, Ryo Miyagi 他	整形外科	Combination chemotherapy of doxorubicin and ifosfamide with proton beam therapy for myoepithelial carcinoma originating in the paraspinal region: A case report and literature review.	Mol Clin Oncol. 17;6:163.2022 Nov 3.	Case report
141	Yasuaki Tamaki, Tomohiro Goto, Joji lwase 他	整形外科	Relationship between iliopsoas muscle surface pressure and implant alignment after total hip arthroplasty: a cadaveric study.	Sci Rep. 13;1:3492.2023 Mar 1.	Original Article
142	Shinji Kawaguchi, Shoji Fukuta, Masashi Kano 他	整形外科	Reduction of perioperative blood loss and operating time for arthroscopic rotator cuff repair by intravenous administration of tranexamic acid.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 31:6-10.2023 Feb 7.	Original Article
143	Akihiro Nitta, Keizo Wada, Daisuke Hamada 他	整形外科	Insertion of a spacer block translates the tibia anteriorly during evaluation of soft tissue balance in cruciate- retaining total knee arthroplasty.	Knee. 2023 Jun;42:125-129. Epub 2023 Mar 28.	Original Article
144	Koichi Sairyo, Masatoshi Morimoto, Kazuta Yamashita 他	整形外科	Surgical Technique and Clinical Benefits in Full- Endoscopic Trans-Kambin Triangle Lumbar Interbody Fusion (KLIF): a Review.	Journal of Musculoskeletal Research.25(2):Free Access.2022 June 13.	Review
145	Kiyoshi Yagi, Kazuya Kishima, Fumitake Tezuka 他	整形外科	Advantages of revision transforaminal full- endoscopic spine surgery in patients who have previously undergone posterior spine surgery.	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2022 Dec 5.	Original Article
146	Kazuta Yamashita, Yasuaki Tamaki, Daiki Nakajima 他	整形外科	A Cadaveric Simulation Study of Radiation Exposure to the Surgical Team During Fluoroscopic Spinal Surgery:How Much are We Exposed?	Spine Surgery and Related Research. January 2023	Original Article
147	Shin Kondo, Tatsuro Inoue, Takashi Saito 他	整形外科	Allogeneic haematopoietic stem cell transplantation and patient falls: impact of lower extremity muscle strength.	BMJ Support Palliat Care. 2022 May 9	Original Article
148	Kazutoshi Murao, Yoshiaki Kubo	皮膚科	A case of childhood granulomatous periorificial dermatitis mimicking lichen nitidus	Int J Dermatol. 2023 Mar; 62: e133-e135	Letter

149	Ryo Sekiguchi, Michiko Kinoshita, Ryosuke Kawanishi 他	麻酔科	Comparison of hemodynamics during induction of general anesthesia with remimazolam and target-controlled propofol in middle-aged and elderly patients: a single-center, randomized, controlled trial.	BMC Anesthesiology,2023 Jan 10;23(1):14. (オンライン)	Original Article
150	Michiko Kinoshita, Sarara Mutoh, Asuka Kasai 他	麻酔科	General Anesthesia in a Patient With Neuronal Intranuclear Inclusion Disease: A Case Report.	A&A Practice ,2022 October;Volume 16, Number 10;1-3	Case report
151	Michiko Kinoshita, Yoko Sakai, Kimiko Katome 他	麻酔科	Transition in eye gaze as a predictor of emergence from general anesthesia in children and adults: a prospective observational study.	BMC Anesthesiology,2022 Oct 17;22(1):320.	Original Article
152	Michiko Kinoshita, Yuki Ishikawa, Ryo Sekiguchi 他	麻酔科	Impact of surgical masks on fraction of inspired oxygen during oxygen therapy depends on the type of oxygen masks and respiratory conditions: volunteer- and simulation-based studies	Journal of Anesthesia,2022 Oct;36(5):633-641	Original Article
153	Ryosuke Kawanishi, Nami Kakuta, Yoko Sakai 他	麻酔科	Desflurane improves lung collapse more than propofol during one-lung ventilation and reduces operation time in lobectomy by video-assisted thoracic surgery: a randomized controlled trial	BMC Anesthesiology. 2022 Apr 29;22(1):125.	Original Article
154	Ryosuke Kawanishi, Yasuhito Honda, Yutaro Bando 他	麻酔科	Effect of 10-minute prewarming plus intraoperative co-warming on core temperature maintenance during breast surgery compared to intraoperative co-warming alone:a randomized controlled trial	The Journal of Medical Investigation 2023 February,Vol.70;74-79	Original Article
155	Hidehiro Umehara, Tomoya Takeda, Leona Yoshida 他	精神科神経科	Effects of group therapy on jumping to conclusion bias in adolescents with autism spectrum disorder: An exploratory study.	J. Med. Invest. 2023 Feb;70(1.2):115-122,	Original Article
156	Yukako Homma, Yasunobu Hayabuchi	小児科	Descending aorta flow pattern in a neonate with patent ductus arteriosus coexisting with liver hemangioma.	J Echocardiogr. 2022 Dec;20(4):233-235.	Case report
157	Hiroki Sato, Kenichi Suga, Masashi Suzue 他	小児科	Novel large deletion involving EVC and EVC2 in Ellis-van Creveld syndrome.	Hum Genome Var. 2022 May 17;9(1):15.	Case report

158	Aya Shirakawa, Toshiyuki Yasui, Chiharu Machida 他	産科婦人科	Ultrasonographic assessment of testicular volume in Japanese newborn infant.	J Med Invest. 2022 Aug; 69(3.4):256-260.	Original Article
159	Masami Abe, Yuri Yamamoto, Hiroki Noguchi 他	産科婦人科	Is a freeze-all strategy necessary for all embryo transfers: Fresh embryo transfer without progesterone elevation results in an equivalent pregnancy rate to cryopreserved embryo transfer.	J Med Invest. 2022 Aug ;69(3.4):224-229.	Original Article
160	Kanako Yoshida, Otgontsetseg Erdenebayar, Yuri Kadota 他	産科婦人科	Effect of intraperitoneal docetaxel on ovarian function in mice.	J Obstet Gnaecol. 2022 Nov;42(8):3672-3678.	Original Article
161	Takeshi Iwasa, Hiroki Noguchi, Hidenori Aoki 他	産科婦人科	Effects of undernutrition and low energy availability on reproductive functions and their underlying neuroendocrine mechanisms.	Endocr J. 2022 Dec 28;69(12):1363-1372.	Review
162	Ayaka Tachibana, Yuri Yamamoto, Hiroki Noguchi 他	産科婦人科	Changes in Serum Oxytocin Levels under Physiological and Supraphysiological Gonadal Steroid Hormone Conditions in Women of Reproductive Age: A Preliminary Study	Nutrients. 2022 Dec 16;14(24):5350.	Case report
163	Rie Yanagihara, Toshiya Matsuzaki, Hidenori Aoki 他	産科婦人科	Compatible cut-off values for luteinizing hormone and the luteinizing hormone/follicle-stimulating hormone ratio in diagnostic criteria of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology for polycystic ovary syndrome.	J Obstet Gynaecol Res. 2023 Jan;49(1):253-264.	Original Article
164	Takayoshi Shinya	放射線診断科	Editorial Comment: Newly Developed Cross-Platform Method for Calibration of Iodine Quantification on Dual-Energy CT Across Manufacturers	American Journal of Roentgenology.2022 Apr;218(4):756	Others
165	Takayoshi Shinya	放射線診断科	Malignant Small Bowel Neoplasms:a review of post-contrast multiphasic multidetector computed tomography	The Journal of Medical Investigation.2022 Apr;69(1.2):19-24	Review
166	Shoichiro Takao, Maho Kaneda, Mihoko Sasahara 他	放射線診断科	Diffusion tensor imaging (DTI) of human lower leg muscles: correlation between DTI parameters and muscle power with different ankle positions	Japanese Journal of Radiology.2022 Sep;40(9):939-948.	Original Article

167	Yoshiteru Tada, Toshitaka Fujihara, Kenji Shimada 他	脳神経外科	Seizure types associated with negative arterial spin labeling and positive diffusion-weighted imaging on peri-ictal magnetic resonance imaging	Journal of the Neurological Sciences.2022 May;436:120223	Others
168	Shoichiro Takao, Maho Kaneda, Mihoko Sasahara 他	放射線診断科	Correction to: Diffusion tensor imaging (DTI) of human lower leg muscles: correlation between DTI parameters and muscle power with different ankle positions	Japanese Journal of Radiology 2022 Sep;40(9):949-950	Others
169	Yuki Kanazawa, Masafumi Harada, Mitsuharu Miyoshi 他	放射線診断科	Evaluation of brain tumor and surrounding tissue activity using multi-pool CEST imaging on 3 Tesla scanner	Proceedings of ISMRM.2022 May;No.4285	Review
170	Nagomi Fukuda, Yuki Kanazawa, Hiroaki Hayashi 他	放射線診断科	Development of self-calibrating B1 correction for three-dimensional variable flip angle T1 mapping	Proceedings of ISMRM.2022 May;No.3218	Review
171	Shun Kitano, Yuki Kanazawa, Masafumi Harada 他	放射線診断科	Conversion map from quantitative parameter mapping to myelin water fraction	Proceedings of ISMRM.2022 May;No.3052	Others
172	Oyundari Gonchigsuren, Masafumi Harada, Sonoka Hisaoka 他	放射線診断科	Brain abnormalities in children with attention-deficit/hyperactivity disorder assessed by multi-delay arterial spin labeling perfusion and voxel-based morphometry	Japanese Journal of Radiology.2022 Jun;40(6):568-577	Original Article
173	Takaharu Kudoh, Akihiro Haga, Keiko Kudoh 他	放射線治療科	Correction to: Radiomics analysis of [(18F)]-fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography for the prediction of cervical lymph node metastasis in tongue squamous cell carcinoma	Oral Radiology. 2023 Jan;39(1):51-52.	Others
174	Yoichi Otomi, Saho Irahara, Hiroaki Inoue 他	放射線診断科	Increased 18F-FDG Uptake in the Axillary Lymph Nodes of the Vaccinated Side Associated with COVID-19 Vaccination	Molecular Imaging And Radionuclide Therapy.2022 Jun;31(2):169-17	Others
175	Yoichi Otomi, Yuta Arai, Maki Otomo 他	放射線診断科	Increased physiological [18F]FDG uptake in the liver and blood pool among patients with impaired renal function	Nuclear medicine review. Central & Eastern Europe.18 Jul 2022, 25(2):95-100	Others
176	Mayumi Takeuchi, Kenji Matsuzaki, Yoshimi Bando 他	放射線診断科	Magnetic resonance imaging characteristics of polypoid endometriosis and review of the literature	Journal of Obstetrics and Gynaecology Research.2022 Oct;48(10):2583-2593	Original Article



177	Yuki Kanazawa, Masafumi Harada, Yo Taniguchi 他	放射線診断科	Myelin-weighted imaging derived from quantitative parameter mapping	European Journal of Radiology.2022 Sep;156:110525	Others
178	Nahomi Shono, Yoichi Otomi, Hideki Otsuka 他	放射線診断科	Multicystic Biliary Hamartoma With Xanthogranulomatous Inflammation on 18F-FDG PET/CT	Clinical Nuclear Medicine.2022 Oct;47(10):882-884	Others
179	Taku Matsuda, Ryoma Morigaki, Yuki Matsumoto 他	脳神経外科	Obsessive-compulsive symptoms are negatively correlated with motor severity in patients with generalized dystonia	Scientific Reports.2022 Nov;12(1):20350	Case report
180	Motoharu Sasaki, Yuji Nakaguchi, Takeshi Kamomae 他	放射線治療科	Predicting the complexity of head-and-neck volumetric-modulated arc therapy planning using a radiation therapy planning quality assurance software	Reports of Practical Oncology & Radiotherapy   Journal.2022 Dec;27(6):963-972	Original Article
181	Mayumi Takeuchi, Kenji Matsuzaki, Yoshimi Bando 他	放射線診断科	MR Imaging Findings of Uterine Adenomatoid Tumors	Magnetic Resonance in Medical Sciences.2023 Jan; (オンライン)	Original Article
182	Shotaro Haji, Koji Fujita, Ryosuke Oki 他	脳神経内科	An Exploratory Trial of EPI-589 in Amyotrophic Lateral Sclerosis (EPI-ALS): Protocol for a Multicenter, Open-Labeled, 24-Week, Single-Group Study	JMIR Research Protocols.2023 Jan;12:e42032	Others
183	Naoki Miyamoto, Hiroaki Inoue, Tomohiro Inui 他	呼吸器外科	Absolute Lymphocyte Count Changes During Neoadjuvant Chemotherapy are Associated With Prognosis of Human Epidermal Growth Factor Receptor 2-Positive Breast Cancer Patients	Clinical Breast Cancer.2023 Jan;23(3):e68-e76	Others
184	Yuka Hiroshima, Yoichi Otomi, Takayoshi Shinya 他	放射線診断科	11C-Methionine PET/CT and 18F-FDG PET/CT in the Evaluation of Adult Alveolar Rhabdomyosarcoma	Molecular Imaging And Radionuclide Therapy.2023 Feb;32(1):62-64	Others
185	Yoichi Otomi, Takayoshi Shinya, Hiroto Kasai 他	放射線診断科	Axillary Lymph Node Uptake on 18F-FDG PET/CT after COVID-19 Vaccination: A Direct Comparison Study with Influenza Vaccination	Molecular Imaging And Radionuclide Therapy.2023 Feb;32(1):13-19	Original Article
186	Mayumi Takeuchi, Kenji Matsuzaki, Masafumi Harada	放射線診断科	Susceptibility-weighted MR sequence for the evaluation of intra-tumoral hemorrhage: Differentiation of benign and malignant ovarian tumors	Proceedings of ISMRM.2022 May;No.3673	Others

187	Ryosuke Kasai, Hideki Otsuka	放射線診断科	Noise Reduction Using Singular Value Decomposition with Jensen-Shannon Divergence for Coronary Computed Tomography Angiography	Diagnostics (Basel).2023 Mar;13(6):111	Original Article
188	Yuta Uemura, Yuka Hiroshima, Ayano Tada 他	歯周病科	Porphyromonas gingivalis Outer Membrane Vesicles Stimulate Gingival Epithelial Cells to Induce Pro-Inflammatory Cytokines via the MAPK and STING Pathways	Biomedicines. 2022 Oct 20;10(10):2643.	Original Article
189	Koji Naruishi	歯周病科	Biological Roles of Fibroblasts in Periodontal Diseases	Cells. 2022 Oct 24;11(21):3345.	Review
190	Yuka Hiroshima, Jun-Ichi Kido, Rie Kido 他	歯周病科	Beta-defensin 2 synthesized by a cell-free protein synthesis system and encapsulated in liposomes inhibits adhesion of Porphyromonas gingivalis to oral epithelial cells	Odontology, 2023.Feb	Original Article
191	Jun-ichi Kido, Yuka Hiroshima, Rie Kido 他	歯周病科	Lipocalin 2, synthesized using a cell-free protein synthesis system and encapsulated into liposomes, inhibits the adhesion of Porphyromonas gingivalis to human oral epithelial cells	Journal of Periodontal Research, 2022 Dec 58(2), 262-273.	Original Article
192	Lipei Liu, Megumi Watanabe, Tetsuo Ichikawa	そしやく科	Robotics in Dentistry: A Narrative Review	Dent J (Basel). 2023 Feb 24;11(3):62..(オンライン)	Review
193	Takahiro Kishimoto, Takaharu Goto, Tetsuo Ichikawa	そしやく科	Stress Reduction Effects during Block-Tapping Task of Jaw in Healthy Participants: Functional Near-Infrared Spectroscopy (fNIRS) Measurements of Prefrontal Cortex Activity	Brain Sci. 2022 Dec 14;12(12):1711..(オンライン)	Original Article
194	Yoshihiro Tagami, Keiko Fujimoto, Takaharu Goto 他	そしやく科	Can Measurement of Ultrasonic Echo Intensity Predict Physical Frailty in Older Adults?	Diagnostics (Basel). 2023 Feb 11;13(4):675.(オンライン)	Original Article
195	Hideki Suito, Keiko Fujimoto, Takaharu Goto 他	そしやく科	Effective use of an extraoral vacuum in preventing the dispersal of particulate matter from metal dental materials	J Occup Health. 2023 Jan-Dec;65(1):e12412.(オンライン)	Original Article

196	Adityakrisna Yoshi Putra Wigianto, Yuichi Ishida, Takashi Matsuda 他	そしやく科	Novel Magnetic Attachment System Manufactured Using High- Frequency Heat Treatment and Stamp Technique: Introduction and Basic Performance	Dent J (Basel). 2022 May 2;10(5):75. (オンライン)	Original Article
197	Kan NAGAO, Keiko FUJIMOTO, Hideki SUITO 他	そしやく科	Effect of Palatal Augmentation Prosthesis on Speech and Swallowing in Tongue Dysfunction:	Journal of Oral Health and Biosciences. 2023年3月, 35巻2 号 p.39-46(オンライン)	Review
198	Yoshizo Matsuka	かみあわせ補綴科	Orofacial Pain: Molecular Mechanisms, Diagnosis, and Treatment 2021	International Journal of Molecular Sciences 2022 Apr 27;23(9):4826. (オンライン)	Review
199	Swarnalakshmi Raman, Arief Waskitho, Resmi Raju 他	かみあわせ補綴科	Analgesic Effect of Tranilast in an Animal Model of Neuropathic Pain and Its Role in the Regulation of Tetrahydrobiopterin Synthesis	International Journal of Molecular Sciences 2022 May 24;23(11):5878(オンライン)	Original Article
200	Parimal Chavan, Sachiko Chikahisa, Tetsuya Shiuchi 他	かみあわせ補綴科	Dual orexin receptor antagonist drug suvorexant can help in amelioration of predictable chronic mild stress-induced hyperalgesia	.Brain Research Bulletin 2022 Oct 1;188:39-46.	Original Article
201	Susumu Abe, Fumiaki Kawano, Yoshizo Matsuka 他	かみあわせ補綴科	Relationship between Oral Parafunctional and Postural Habits and the Symptoms of Temporomandibular Disorders: A Survey- Based Cross-Sectional Cohort Study Using Propensity Score Matching Analysis	Journal of Clinical Medicine 2022 Oct 28;11(21):6396. (オンライン)	Original Article
202	Yuehui Zhang, Maki Hosoki, Masamitsu Oshima 他	かみあわせ補綴科	Identification of microRNA Signatures in Peripheral Blood of Young Women as Potential Biomarkers for Metal Allergy	Biomedicines 2023 Jan 19;11(2):277 (オンライン)	Original Article
203	Swarnalakshmi Raman, Daisuke Ikutame, Kazuo Okura 他	かみあわせ補綴科	Targeted Therapy for Orofacial Pain: A Novel Perspective for Precision Medicine	Journal of Personalized Medicine 2023 Mar 22;13(3):565 (オンライ ン)	Review
204	Islamy Rahma Hutami, Takashi Izawa, Tsendsuren Khurel-Ochir 他	矯正歯科	HIF-1 $\alpha$ controls palatal wound healing by regulating macrophage motility via S1P/S1P1 signalling axis.	Oral Diseases 2022 May 28(4):1157-1169	Original Article

205	Yuta Matsuki, Hiroko Sato, Noboru Kajimoto 他	矯正歯科	Effects of immersion in NaCl solutions on the electric conductivity and the reduction of the shear bond strength of resin-modified glass-ionomer-cements after current application.	Dental Materials Journal 2022 May 41(3):487-94	Original Article
206	Masahiko Watanabe, Nobuhiko Kawai, Manami Shibata 他	矯正歯科	Establishment of a new rehabilitation program using masticatory training food for jaw deformity patients.	Journal of Dental Sciences 2022 Jul; 17(3):1217-1224	Original Article
207	Keiichiro Watanabe, Bobby Mitchell, Takuma Sakamaki 他	矯正歯科	Mechanical stability of orthodontic miniscrew depends on a thread shape.	Journal of Dental Sciences 2022 Jul; 17(3):1244-1252	Original Article
208	Takuma Sakamaki, Keiichiro Watanabe, Akihiko Iwasa 他	矯正歯科	Thread shape, cortical bone thickness, and magnitude and distribution of stress caused by the loading of orthodontic miniscrews: finite element analysis	Scientific Reports 2022 July; 12:12367 (オンライン)	Original Article
209	Yoshiki Higa, Masahiro Hiasa, Hiroyuki Tenshin 他	矯正歯科	The xanthine oxidase inhibitor febuxostat suppresses adipogenesis and activates Nrf2.	Antioxidants 2023 Jan; 12(1):133 (オンライン)	Original Article
210	Kaoru Yoshinaga, Akihiro Yasue, Silvia Naomi Mitsui 他	矯正歯科	Effects of Wnt10a and Wnt10b double mutations on tooth development.	Genes 2023 Jan; 14(2):340(オンライン)	Original Article
211	Ryoko Shioyasono, Kaoru Yoshinaga, Atsushi Shioyasono 他	矯正歯科	Nonsurgical orthodontic treatment for a patient with Sotos syndrome.	American Journal of Orthodontics and Dentofacial Orthopedics 2023 March; 163(3):426-442	Case report
212	XIA Linze, KANO Fumiya, HASHIMOTO Noboru 他	矯正歯科	Conditioned medium from stem cells of human exfoliated deciduous teeth partially alleviates the inflammation of mouse condylar chondrocytes via secreted frizzled related protein 1.	Journal of Oral Health and Biosciences 2023 March; 35(2):52-60	Original Article
213	Yoshiko Yamamura, Keiko Miyoshi, Yasuhiro Mouri 他	口腔外科	miR-155-5p can be involved in acquisition of osseointegration on titanium surface	In Vitro Cellular & Developmental Biology - Animal. Published online 2022 Sep;58(8):693-701	Original Article
214	Keiko Kudoh, Naoyuki Fukuda, Kazuya Akita 他	口腔外科	Reconstruction of rabbit mandibular bone defects using carbonate apatite honeycomb blocks with an interconnected porous structure.	J Mater Sci Mater Med. 2022 Dec 31;34(1):2	Original Article

215	Naoyuki Fukuda, Keiko Kudoh, Kazuya Akita 他	口腔外科	Comparison of bioresorbable bone substitutes, carbonate apatite and $\beta$ -tricalcium phosphate, for alveolar bone augmentation with simultaneous implant placement.	Oral Science International. Feb 7, 2023	Original Article
216	Keiko Kudoh, Go Ohe, Natsumi Takamaru 他	口腔外科	Computed tomography-based morphological analysis for intraoral vertical ramus osteotomy in patients with mandibular prognathism	Oral Science International. Jan 21. 2023	Original Article
217	Akira Takahashi, Kumiko Kamada, Naoyuki Fukuda 他	口腔外科	Analysis of the sublingual artery using contrast-enhanced computed tomography	Clin Implant Dent Relat Res. 2023 Jun;25(3):532-539	Original Article
218	Yoshiko YAMAMURA, Kohei KAMOI, Keiko KUDOH 他	口腔外科	A Case of Ameloblastoma Removed Using a Three-dimensional Transparent Plastic Jaw Model Which Can Visualize Internal Jawbone Structures	Journal of Oral Health and Biosciences. 35(1):9 ~ 13, 2022.9	Original Article
219	Suzuki Yoshitaka, Okura Kazuo, Yoshihara Yasutomo 他	口腔外科	Survey of oral maxillofacial injury experiences and sports mouthguard use in wakeboarders	Int. J. Sports Dent. Vol.15(No.1) 17-24, Nov 10, 2022	Original Article
220	Asami Okada, Misuzu Yamada-Yamashita, Yukari Tominaga 他	アンチエイジング医療センター	Novel method utilizing bisulfite conversion with dual amplification-refractory mutation system polymerase chain reaction to detect circulating pancreatic $\beta$ -cell cfDNA	J Diabetes Investig . 2022 Jul;13:1140-1148	Original Article
221	Munehide Matsuhisa, Hideaki Miyoshi, Daisuke Yabe 他	アンチエイジング医療センター	Use of iglarlixi for management of type 2 diabetes in Japanese clinical practice: Sparta Japan, a retrospective observational study	Diabetes Ther. 2023 Jan;14:219-236	Original Article
222	Hiroyasu Mori, Yasunobu Tokuda, Eriko Yoshida 他	アンチエイジング医療センター	Chronic intake of a meal including alaska pollack protein increases skeletal muscle mass and strength in healthy older women: a double-blind randomized controlled trial	J Nutr. 2023 Jan 14;152:2761-2770	Original Article
223	Makoto Fukui, Hiroki Asakuma, Hiroko Horiuchi 他	歯科衛生室	Oral care tablet containing kiwifruit powder affects tongue coating microbiome	Clin Exp Dent Res.,2022 Jun, 8(3): 721-728.	Original Article

224	Yasufumi Nishikawa, Yoritoki Tomotake, Hiromichi Kawano 他	口腔インプラントセンター	Effects of Candidalysin Derived from <i>Candida albicans</i> on the Expression of Pro-Inflammatory Mediators in Human Gingival Fibroblasts	Int J Mol Sci. 2023 Feb 7;24(4):3256	Original Article
225	Masato Tagi, Mari Tajiri, Yasuhiro Hamada 他	病院情報センター	Accuracy of an Artificial Intelligence-Based Model for Estimating Leftover Liquid Food in Hospitals: Validation Study	JMIR Form Res. 2022 May 10;6(5):e35991	Original Article
226	Kenta Yagi, Yasutaka Sato, Satoshi Sakaguchi 他	総合臨床研究センター	A web-based survey of educational opportunities of medical professionals based on changes in conference design during the COVID-19 pandemic	Educ Inf Technol (Dordr). 2022;27(7):10371-10386.	Original Article
227	Kenta Ikushima, Yoshiro Abe, Hiroyuki Yamasaki 他	形成外科	A Case of Macrodystrophia Lipomatosa of the Lower Extremity: An Effective Measuring of the Dynamic Plantar Pressure for Severe Congenital Deformity	J Plast Reconstr Surg.2022.Jul:1:75-81	Case report
228	Yutaro Yamashita, Yoshiro Abe, Shinji Nagasaka 他	形成外科	Relationship between fluctuations in skin perfusion pressure values and wound healing in patients with chronic limb-threatening ischemia undergoing hemodialysis	The Journal of Medical Investigation.2022.Aug:69:294-298	Original Article
229	Abe Yoshiro, Mineda Kazuhide, Yamashita Yutaro 他	形成外科	Ischial and Sacral Pressure Ulcers A Review of Optimal Treatments, Historical Management, and Surveillance Studies of the Japanese Population	International Journal of Surgical Wound Care.2022.Sep:3:74-80	Review
230	Shinji Nagasaka, Yoshiro Abe, Yutaro Yamashita 他	形成外科	Radiographic Study Evaluating Perforator Vessels in the Ischiorectal Fossa for Safe Elevation of Island Flaps	Plastic and Reconstructive Surgery .2022.Oct:10:e4561	Original Article
231	Yoshiro Abe, Soushi Ishida, Kazuhide Mineda 他	形成外科	One-Stage Perifascial Areolar Tissue and Skin Grafting Combined with Negative Pressure Wound Therapy for a Refractory Wound with an Exposed Elbow Joint and Extensive Skin Defect	Indian Journal of Surgery.2022.Oct:84:1067-1073	Case report

232	Yutaro Yamashita, Shinji Nagasaka, Kazuhide Mineda 他	形成外科	Risk factors for early wound dehiscence by surgical site infection after pressure ulcer surgery	The Journal of Medical Investigation.2023.Feb:70:101-104	Original Article
233	Kazuhide Mineda, Katsuya Sato, Tasuku Nakahara 他	形成外科	Cyclical Stretching Induces Excess Intracellular Ca <sup>2+</sup> Influx in Human Keloid-Derived Fibroblasts In Vitro	Plast Reconstr Surg ,2023 Feb:1:151:346-354	Original Article
234	Harutaka Yamaguchi, Yoshihiro Okura, Ryo Tabata 他	総合診療部	Factors related to prednisolone-free remission in patients with polymyalgia rheumatica	Journal of Hospital General Medicine 2022 Sep; 4(5): 221-227	Original Article
235	Keisuke Kawahito, Harutaka Yamaguchi, Yoshinori Nakanishi 他	総合診療部	Feelings toward medicine in remote areas among medical students aiming to become generalists: A comparison with other specialists	J Med Invest. 2023 Feb; 70(1.2):129-134	Original Article
236	Kenji Tani, Haruna Sawada, Yoshihiro Okura 他	総合診療部	Decreased ratio of cortisol to adrenocorticotrophic hormone in patients with active rheumatoid arthritis	Journal of Hospital General Medicine 2023 Jan; 5(1): 1-8	Original Article
237	Harutaka Yamaguchi, Yoshihiro Okura, Kaori Inaba 他	総合診療部	Comparison of therapeutic responses between polymyalgia rheumatica and remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema syndrome	J Med Invest. 2023 Feb; 70(1.2):145-149	Original Article
238	Ohmae Hiroshi, Ide Noriko, Katayama Takafumi 他	リハビリテーション部	Age-related changes in body composition parameters in healthy Japanese.	The Journal of Nursing Investigation. 2022 Nov; 20(1): 25-32.	Original Article
239	Ayaka Yamanaka, Sonoko Yasui-Yamada, Taiki Furumoto 他	リハビリテーション部	Association of phase angle with muscle function and prognosis in patients with head and neck cancer undergoing chemoradiotherapy.	Nutrition. 2022 Nov-Dec;103-104.	Original Article
240	Shin Kondo, Yuya Ueda, Koji Komatsu 他	リハビリテーション部	Characteristics of the stand-to-sit motion in healthy older women : Evaluation of sitting impact by measurement of ground reaction forces	The Journal of Medical Investigation. 2022;69(3.4):278-286.	Original Article
241	Shin Kondo, Tatsuro Inoue, Takashi Saito 他	リハビリテーション部	Impact of postoperative physical activity on the development of pneumonia in the subacute phase after esophagectomy in patients with esophageal cancer: A retrospective cohort study	European Journal of Oncology Nursing. February 2023; 62: 102270	Original Article

242	Nao Ohmae, Sonoko Yasui- Yamada, Taiki Furumoto 他	リハビリテーション部	Muscle mass, quality, and strength; physical function and activity; and metabolic status in cachectic patients with head and neck cancer.	Clin Nutr ESPEN. 2023 Feb;53:113-119.	Original Article
-----	--	------------	---	---------------------------------------	------------------

計242件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	該当なし				Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。



(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1. 委員会規則（組織、申請手続き、審議、有害事象、実施状況報告、終了報告など会議等委員会運営に必要な事項）、2. 生命科学・医学系研究実施に係る標準業務について、3. 生命科学・医学系研究に関連する重篤な有害事象対応について、4. 研究者主導臨床研究でのモニタリング又は監査の受入れについて、5. 他の研究機関への既存試料・情報提供について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理規程（管理の概要、手続き及び方法、勧告及び監査）	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 令和 4 年度から、外部の e ラーニング（ICR-web）の施設コースの年 1 回の受講を必須としました。別途臨床研究の倫理に関する話題も含めたセミナーについては、今後も年 1 ～ 2 回、またはそれ以上実施することとし、令和 4 年度は 1 回実施しています（令和 4 年度の内容は知財中心の内容）。	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(医師) 希望する診療領域に応じて卒後 3～6 年を目処に基本領域の専門医を取得した後、高度先進医療・先端医療を担うべくサブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す。また、本人の希望により、並行して社会人大学院に在籍して医学博士号の取得や、臨床技術研鑽及び研究のための他施設(国内外)での研修も可能である。

(歯科医師) 希望する診療領域に応じて専門医、認定医を取得し、多様化する全身疾患に対応し得るよう、より高度で専門的な歯科治療に関する知識・技術等を身につけ、医療人として高い倫理観をもち、有能かつ誠実で信頼される歯科医師の養成を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	272人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
和泉唯信	内科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	内科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	内科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	内科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
三木浩和	内科	講師	22年	診療科長・プログラム責任者
佐田政隆	循環器内科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
和泉唯信	脳神経内科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
高山哲治	消化器内科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者
脇野 修	腎臓内科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
遠藤逸朗	内分泌・代謝内科	教授	31年	診療科長・プログラム責任者
三木浩和	血液内科	教授	22年	診療科長・プログラム責任者
西岡安彦	呼吸器・膠原病内科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	外科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	外科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	外科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
島田光生	消化器・移植外科	教授	39年	診療科長・プログラム責任者
滝沢宏光	呼吸器外科	教授	27年	診療科長・プログラム責任者
後藤正和	食道・乳腺甲状腺外科	講師	19年	診療科長・プログラム責任者
石橋広樹	小児外科	病院教授	34年	診療科長・プログラム責任者
秦 広樹	心臓血管外科	教授	26年	診療科長・プログラム責任者
高橋正幸	泌尿器科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
西良浩一	整形外科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
高木康志	脳神経外科	教授	30年	診療科長・プログラム責任者
久保宜明	皮膚科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
三田村佳典	眼科	教授	36年	診療科長・プログラム責任者
北村嘉章	耳鼻咽喉科	教授	24年	診療科長・プログラム責任者
原田雅史	放射線科	教授	37年	診療科長・プログラム責任者

岩佐 武	産婦人科	教授	21年	診療科長・プログラム責任者
沼田周助	精神科	教授	22年	診療科長・プログラム責任者
漆原真樹	小児科	教授	28年	診療科長・プログラム責任者
田中克哉	麻酔科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
橋本一郎	形成外科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
大藤 純	救急科	教授	26年	診療部長・プログラム責任者
上原久典	病理診断科	教授	33年	診療部長・プログラム責任者
山口治隆	総合診療部	教授	25年	診療部長・プログラム責任者
松浦哲也	リハビリテーション科	教授	30年	診療部長
佐藤 紀	リハビリテーション科	講師	21年	プログラム責任者
湯本浩通	歯科	教授	31年	診療科長
田中栄二	矯正歯科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
岩崎智憲	小児歯科	教授	33年	診療科長・プログラム責任者
宮本洋二	歯科口腔外科	教授	40年	診療科長・プログラム責任者
湯本浩通	総合歯科診療部	教授	31年	診療科長・プログラム責任者
中西 正	むし歯科	教授	34年	診療科長・プログラム責任者
湯本浩通	歯周病科	教授	31年	診療科長・プログラム責任者
青田桂子	口腔内科	病院教授	26年	診療科長・プログラム責任者
市川哲雄	そしゃく科	教授	40年	診療科長・プログラム責任者
松香芳三	かみあわせ補綴科	教授	35年	診療科長・プログラム責任者
細木秀彦	歯科放射線科	准教授	40年	診療科長・プログラム責任者
川人伸次	歯科麻酔科	教授	32年	診療科長・プログラム責任者
友竹偉則	口腔インプラントセンター	准教授	30年	診療部長・プログラム責任者

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数
- 1) 看護師特定行為研修（指定研修機関）
  - ・研修期間 令和4年4月～令和5年3月
  - ・研修の参加人数 救急領域パッケージ他（10行為）1名、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連（2行為）1名、栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理）関連他（6行為）1名、計3名が全18行為の研修を修了。
- 2) 院内認定コース
  - ・ミドルレベル看護師を対象に、専門的領域のスキルアップを目指して年間を通じたコース研修を開講（全6コース：①がん化学療法看護、②緩和ケア、③リスク管理、④感染管理、⑤褥瘡看護、⑥認知症看護）
  - ・研修の期間・実施回数 令和4年6月～令和5年2月。各コース16～28回（全149回）の研修を開催。
  - ・研修の参加人数 延べ473名が参加。18名がコース研修修了し、病院長より「院内認定看護師」の認定を受ける。
- 3) 院内認定フォローアップ研修
  - ・研修の期間・実施回数 院内認定コース修了者を対象にフォローアップ研修（全14コース、上記6コースに加え⑦乳がん看護、⑧がん放射線療法看護、⑨脳卒中リハビリテーション看護、⑩摂食嚥下障害看護、⑪糖尿病、⑫集中ケア、⑬CRC、⑭エキスパート助産師）を年1回以上開催。研修回数は全30回
  - ・研修の参加人数 延べ202名。
- 4) 医療専門職部門キャリア形成支援研修会
  - ・研修の期間・実施回数 令和4年4月～令和5年3月 ・12回
  - ・研修の参加人数 350人

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数
- 1) 退院支援看護師養成コース
  - ・入院時から退院支援を円滑に実施できる看護師を養成するためのコース研修を開催。
  - ・研修の期間・実施回数 令和4年7月～令和5年1月 研修回数は17回
  - ・研修の参加人数 延べ99名。6名がコース研修を修了し、病院長より「退院支援看護師」の認定を受ける。

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数
- 1) 看護師特定行為研修（指定研修機関）
  - ・研修の期間 令和4年4月～令和5年3月
  - ・研修の参加人数 徳島県内の急性期病院3施設より3名の看護師を受け入れ、救急領域パッケージをはじめ全36行為の研修を修了。
- 2) 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、歯科衛生士等の免許を有する者を徳島大学病院の当該部署において研修させる。
  - ・研修の期間・実施回数（述べ日数）・研修の参加人数
    - （看護師）令和4年10月～令和5年2月 ・4日 ・6名
    - （臨床検査技師）令和4年4月～令和5年3月 ・208日 ・10名
    - （診療放射線技師）令和5年1月～令和5年3月 ・5日 ・1名
    - （歯科衛生士）令和4年4月～令和5年3月 ・12日 ・3名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
管理責任者氏名	病院長 香美 祥二	
管理担当者氏名	総務課長	原田 直樹
	経理調達課長	原井 由美
	医事課長	立山 あけみ
	薬剤部長	石澤 啓介
	看護部長	上田 美香
	医療技術部長	中尾 隆之
	病院情報センター部長	大倉 一夫
	手術部長	高木 康志
	放射線部長	原田 雅史
	ME管理センター長	大藤 純

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科(部)
		処方せん	病院情報システム
		手術記録	病院情報システム
		看護記録	病院情報システム
		検査所見記録	病院情報システム
		エックス線写真	病院情報システム
		紹介状	病院情報システム
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院情報システム
		文書ファイル又は電子媒体で保管 ※診療録の病院外持ち出しは認めていない	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課		
文書ファイルで保管			

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課	文書ファイルで保管
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部 医事課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME管理センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME管理センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME管理センター	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME管理センター			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課 医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課 医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第6)

## 病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input checked="" type="radio"/> 2. 現状
閲覧責任者氏名	事務部長 脇元 直彦
閲覧担当者氏名	総務課長 原田 直樹
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手続の概要 閲覧請求を申請する者は、事前に担当部署に申請を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

### ○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>徳島大学病院（以下「本院」という。）の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療（最先端医療を含む）を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。</li> <li>特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</li> </ul> </li> <li>1 用語の定義</li> <li>2 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本的事項</li> <li>4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針</li> <li>5 医療上の事故等の報告に関する基本方針</li> <li>6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針</li> <li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置の有無（有・無）</li> <li>・ 開催状況：年12回</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメント委員会（毎月原則1回） <ul style="list-style-type: none"> <li>1 医療上の事故等防止のための安全管理の方策に関すること。</li> <li>2 医療上の事故等発生時の対応に関すること。</li> <li>3 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品、未承認新規医療機器を用いた医療の提供に関すること。</li> <li>4 医薬品及び医療機器の安全使用に関すること。</li> <li>5 その他医療上の事故等に関すること。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年5回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回安全管理研修会 「ICの重要性について ー最新の動向と当院の実際ー」</li> <li>第2回安全管理研修会 「麻薬・向精神薬・毒薬等の管理について」</li> <li>「持参薬管理と安全管理」</li> <li>第3回安全管理研修会 「B型肝炎ウイルス対策・再活性化予防」</li> <li>第4回安全管理研修会 「医事関係訴訟について」</li> <li>第5回安全管理研修会 「ヘルスケアシステムと安全 ー国内外での仕事の経験ー」</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>事故報告等の報告に関しては、「徳島大学病院インシデント等発生時の報告に関する取扱要項」を定め、「インシデント報告システム」により報告される。報告されたインシデントは、リスクマネージャーからの報告や安全管理部リスクマネジメント部門員による現場確認及び当事者等の事情聴取により確認され、安全管理部リスクマネジメント部門会議（分析）において、インシデント報告書に基づき改善策を検討する。次に、リスクマネジメント部門会議（分析）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。さらに、これらの改善策をリスクマネジメント委員会が審議した上、リスクマネージャー連絡会でフィードバックする。</li> <li>次のステップとして、実施された改善策のうち、実施状況を把握する必要があると認められる</li> </ul> </li> </ul>	

ンシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）で評価し、改善策を検討する。上記と同様に、リスクマネジメント部門会議（評価）での改善策をリスクマネジメント部門会議（全体）で検討する。次に、これらの実施された改善策をリスクマネジメント委員会で審議した上、リスクマネージャー連絡会で再度フィードバックする。さらに、実施状況を把握する必要があると認められるインシデントについては、リスクマネジメント部門会議（評価）からリスクマネージャー連絡会でのフィードバックを繰り返し行う。（PDCA手法を取り入れている。）

分析方法については、インシデント報告された報告事例（一月約300件程度）を職種の違う担当者が分担して1件1件内容を確認し、インシデントへの意見等を出し合う。その中で、インシデントが警鐘的な事例や、インシデントが他部署にわたる事例など、また、全国的に頻発している事例などを選び、2～3事例、SHELL分析にて毎月分析をしている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容： 徳島大学病院(以下「本院」という。)の患者に対する使命は、患者の権利を尊重し、安全で質の高い医療(最先端医療を含む)を提供することにある。そのためには医療従事者の不断の努力が必要であるが、病院全体としても組織的に取り組み推進することが不可欠である。 特に安全な医療の提供に関して、患者が安心して医療を受けることができる環境を整えるよう本院全体で取り組むこととし、そのために必要な指針を次のとおり定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 用語の定義</li> <li>2 安全管理に関する基本的考え方</li> <li>3 医療に係る安全管理のための取組に関する基本事項</li> <li>4 医療に係る安全管理等のための職員研修に関する基本方針</li> <li>5 医療上の事故等の報告に関する基本方針</li> <li>6 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針</li> <li>7 患者等からの相談及び苦情等への対応に関する基本方針</li> <li>8 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針</li> <li>9 その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容： 感染対策委員会(毎月原則1回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 院内感染の予防及び対策に関すること。</li> <li>2 院内感染防止の実施、監視及び指導に関すること。</li> <li>3 院内感染発生時の措置に関すること。</li> <li>4 職員の院内感染の教育に関すること。</li> <li>5 感染制御部の運営に関すること。</li> <li>6 その他院内感染に関すること。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の内容(すべて)： 令和4年度</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 第1回感染対策研修会 「感染経路別予防策」、「当院の結核2症例の報告」、「VCMの新しいTDMについて」、「急性気道感染症、急性下痢症に対する抗微生物薬適正使用」</li> <li>② 第2回感染対策研修会 「血液培養コンタミ率軽減のために」、「冬に流行する感染症とCOVID-19第8波に向けての対策」、「当院の耐性菌状況から考えるカルバペネム系の適正使用+COVID-19治療薬について」</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎週1回、ICTラウンドを計画的に実施、改善点を部署にフィードバックし、更にICNラウンドで確認している。</li> <li>2 抗MRSA薬、カルバペネム系抗菌薬について、届出制を実施しているが、抗MRSAについてはTDMの実施状況と抗MRSAの適正使用について毎月検討している。</li> <li>3 HIVチームカンファレンスを実施し、2ヶ月に1回開催しているHIV/エイズ小委員会で院内のHIV症例の事例検討や検査結果の報告をしている。</li> </ol>	

- 4 職業感染対策として、全職員の抗体の有無を把握している。針刺し等防止対策としては、曝露者の面接をすべての事例で行い、改善策をフィードバックしている。
- 5 ICUでのBSIサーベイランス、食道手術のSSIサーベイランスを実施している。
- 6 教育体制として、①感染対策研修会、②研修医研修、③看護師研修(新人、2年目)、④感染管理院内認定コース、⑤育休復帰者研修、⑥看護補助者研修、⑦メディカルクラーク研修、⑧清掃担当者研修に分けて計画している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○当院における医薬品安全管理体制について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品安全管理責任者の配置</li> <li>・ 医薬品安全管理業務手順書</li> <li>・ 医薬品安全使用のための職員研修</li> <li>・ 未承認等の医薬品に関わる体制</li> </ul> </li> <li>○処方、医薬品管理の注意点について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類似名称、外観類似医薬品の取り扱い注意</li> <li>・ 麻薬、覚醒剤原料、向精神薬、毒薬等の管理方法</li> <li>・ ハイリスク薬について</li> </ul> </li> <li>○医薬品安全性情報（緊急安全性情報、安全性速報）について</li> <li>○副作用報告制度について</li> <li>○持参薬管理に係る医療安全について</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>与薬や薬剤管理など医薬品に係る業務の実施状況を確認し、結果をフィードバックして改善に向けて取り組んでいる。</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <ul style="list-style-type: none"> <li>「皮膚T細胞リンパ腫に対するメトトレキサート錠の使用（少量メトトレキサート療法）」</li> <li>用法・用量、投与スケジュール： <ul style="list-style-type: none"> <li>メトトレキサート15mgを1週間に1回経口投与する</li> </ul> </li> <li>使用区分： <ul style="list-style-type: none"> <li>適応外使用</li> </ul> </li> <li>有害事象の把握方法： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液検査（血算、腎機能、肝逸脱酵素等）を治療開始時および適宜患者の状態に応じて実施する</li> <li>・ メトトレキサートによる粘膜障害や免疫不全関連リンパ増殖異常症の懸念があり、診察や画像検査により適宜状態評価を行う</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>全病棟に薬剤師を配置し、持参薬を含めた医薬品を管理する体制を構築している。</li> </ul> </li> </ul> <p>院内で発生した副作用やインシデント内容を週1回の薬剤部カンファレンスで薬剤部職員に周知している。</p> <p>医薬品を適応外使用する場合の院内規定を設けている。院内の適応外使用の状況を把握し、医薬品安全管理責任者から安全管理部・リスクマネジメント委員会への報告、必要性等の確認、情報共有および診療科長等を介した必要な指導等を行う体制を構築している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年41回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>(1) 新しい医療機器の導入時の研修について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用した経験のない新しい医療機器を導入する際には、当該医療機器を使用する予定の医療従事者に対する研修会を実施し、その記録を保存している。</li> <li>・ 令和4年度における新しい医療機器を導入する際に開催した研修会は、医療機器18機種に対して、計25回（参加人数：259名）実施した。</li> </ul> <p>(2) 特定機能病院における医療機器研修（院内研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定機能病院として、特に安全使用に際しての技術の習熟が必要と考えられる医療機器については、研修会を実施し、その記録を保存している。</li> <li>・ 2022年度新規採用者オリエンテーション（対象：医師、看護師）にて、医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ）の研修会（開催回数：2回、参加人数：27名）を実施し、正しい操作方法を身に付け、インシデントを予防するためのポイントを学ぶことを目的に実技研修も取り入れている。</li> <li>・ 2022年度新規採用者オリエンテーション（対象：医師）にて、医療機器（除細動装置）も同様に研修会（開催回数：1回、参加人数：11名）を実施した。</li> <li>・ 平成27年度から各病棟（東病棟、西病棟）、外来などの各部署から個別依頼された医療機器の研修会は不定期（要望依頼時）に実施することにより、平成26年度まで実施していた定期研修会より従事者の参加人数が増加している。</li> <li>・ 令和4年度に実施した医療機器研修は人工呼吸器（ネーザルハイフロー等含む）、除細動装置、閉鎖式保育器等で、計13回（参加人数：176名）実施した。医療機器の研修会については、臨床工学技士または医療機器製造販売メーカー担当者が医療機器の正しい操作方法、またはトラブルシューティングなどについて説明している。</li> <li>・ 令和4年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の為、徳島大学病院内の開催予定であった医療機器研修会（開催方法：対面式）は中止、または延期になっている部署も見られた。</li> </ul> <p>(3) 特定機能病院における医療機器研修（院外研修会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年度における医療機器及び医療ガスの研修・講習（対象：臨床工学技士）では、院外研修会（開催方法：WEB研修会、eラーニング）は計86回（12名）であった。</li> <li>・ 令和4年度も新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の為、徳島県内外で開催予定であった医療機器研修会及び講習会（開催方法：対面式）は中止、または延期になっている。</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>主な医療機器（①人工心肺装置及び補助循環装置、②人工呼吸器、③血液浄化装置、④除細動装置、⑤閉鎖式保育器、⑥X線CT装置、⑦診療用高エネルギー放射線発生装置、⑧診療用放射線照射装置、⑨MRI装置等）の保守点検に関する計画の策定及び保守点検を実施している。具体的には、医療機器製造販売メーカーの指定期間（使用年数または使用時間）により、プリベンティブメンテナンスや機器のオーバー・ホールを各メーカーへ依頼し、実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：使用事例無し</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器の添付文書及び医薬品・医療機器総合機構（PMDA）の医療機器安全性情報サービ스에登録し、情報を収集している。また、直接、医療機器製造販売メーカーから不具合情報や安全情報を得ている。収集した医療機器に関連した不具合情報や安全情報、情報の性質や</li> </ul>	

内容により異なるが、使用者（医療従事者）や内容が特定の部署に限定される場合には個別に必要部署のみに周知し、多くのスタッフが知る必要がある場合には、安全管理部等を通じて院内周知している。

- ・医療機関において安心・安全に電波を利用するための手引き（2021年7月30日改訂、電波環境協議会、総務省）を参考にして、令和3年12月より、各病棟等にて使用されている医用テレメータ（ベッドサイドモニター、送信機）のチャンネル管理及びゾーン管理ができる医療機器保守管理システムを新たに導入し、運用を開始している。

（注）前年度の実績を記入すること。



規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日から医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理担当の副院長をもって充てている。 また、同規則にて、医療安全管理責任者が安全管理部、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する規定を定めている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(8名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>緊急安全性情報・安全性速報等の医薬品情報を収集および整理し、医療スタッフへ情報提供する体制を整えている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>薬剤部内に医薬品の安全管理を担う担当者(薬剤部安全管理担当者)を定めるとともに、未承認等の医薬品に関する使用状況の把握、必要性等の確認、情報の共有および診療科長等を介した必要な指導等を行う体制を整えている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p> <p>・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部、職種 薬剤師)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月に「徳島大学病院における医療に関する安全管理規則」の改正を行い、平成28年10月1日からインフォームドコンセント責任者を置き、インフォームドコンセントガイドラインの管理・周知徹底、適切な実施及び指導等の業務を行う規定を定めた。</p> <p>インフォームドコンセントガイドラインの主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 目的</li> <li>2 対象</li> <li>3 説明して同意を得る手順 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が説明し、誰が立ち会うのか</li> <li>・どこで行うのか</li> <li>・記録と保管</li> <li>・説明と同意</li> </ul> </li> </ol>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療録等の管理に関する責任者の選任にあたっては、徳島大学病院診療録管理規則により、本院の医療支援センター長を診療録管理責任者として充てている。</p> <p>診療録管理責任者は、診療録の記載内容を確認し、診療録の適切な管理を行うものとしている。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（４）名、専任（３）名、兼任（６）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（０）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（０）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（０）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（１）本院において発生した医療上の事故等の原因究明、調査、分析及び対策の検討並びに当該医療上の事故等の再発防止に関すること。</li> <li>（２）事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認及び指導に関すること。</li> <li>（３）患者及び家族への説明等事故発生時の対応状況についての確認及び指導に関すること。</li> <li>（４）医療上の事故等の防止に関する教育及び研修の企画及び実施に関すること。</li> <li>（５）医療上の事故等の防止に関する情報の収集及び提供に関すること。</li> <li>（６）医療上の事故防止安全対策マニュアルの改訂に関すること。</li> <li>（７）インシデント報告の管理に関すること。</li> <li>（８）リスクマネジメント委員会で用いられる資料及び議事要録の作成及び保存、その他リスクマネジメント委員会の庶務に関すること。</li> <li>（９）医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>（１０）医薬品の安全使用に係る連絡調整に関すること。</li> <li>（１１）医療機器の安全使用に係る連絡調整に関すること。</li> </ol> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7件）、及び許可件数（6件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - (1) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療の提供についての審査に関すること。
  - (2) 高難度新規医療技術又は未承認新規医療機器を用いた医療実施後の症例報告の検証に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（13件）、及び許可件数（12件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 活動の主な内容：
  - (1) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供についての審査に関すること。
  - (2) 未承認新規医薬品を用いた医療の提供後の報告に関すること。
  - (3) その他未承認新規医薬品に関すること。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年209件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年85件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

全死亡事例を管理者へ報告しており、予期せぬものであったか、蘇生処置などの家族への説明、Ai/病理解剖の有無など、特記すべき事項について情報共有を行っている。また、重大と考えられる事例については症例検討を個別に行い、必要があれば管理者の判断のもと、医療事故調査・支援センターへ報告し、院内事故調査委員会を立ち上げる。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：熊本大学病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：秋田大学医学部附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

災害時の医療安全対策について確認があり、災害時に備え、医療安全の対策強化を行うことが重要であるとの助言があった。総務課と協同し、災害対策マニュアルへ盛り込むことを検討している。

また、インシデント発生時にリアルタイムで上層部へ報告ができる方策について助言があった。Microsoft Teams での報告は Web 環境に左右されるため、インシデント発生時報告連絡体制についてスタッフマニュアルに掲載し、重大インシデント発生時の報告体制については個別に安全管理部ニュースを作成、全部署へ配付し周知を行った。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

院内の患者相談は全て患者支援センターを窓口としており、患者から分かりやすい場所に立地している。当該センターで受け付けた安全管理に係る相談は、その内容に応じて、医療安全管理部門など適切な専門の担当部署に振り分け、患者支援センターの相談員と協働して相談に対応する。また、患者相談の内容と対応状況は、患者支援センター内の会議（実務者会議）で報告され、当該センターが至急又は重大と判断する相談内容は、病院長に直接報告を行う。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

現在行われている医療に係る安全管理及び医薬品等の安全使用のための研修において、必ず実施すべき研修項目を追加する。また、e-learning を活用したテスト等により、学習効果測定を実施する。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

毎年、安全管理研修会を院内において実施し、管理者をはじめ、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者が必ず受講している。

また、令和4年度は管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全責任者がそれぞれ日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に参加した。

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

◆ISO9001

一般社団法人日本能率協会審査登録センター

登録日：2002年12月18日

登録有効期限：2023年12月17日

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

公表すべき事項は該当なし

・評価を踏まえ講じた措置

業務手順の見直し及び周知

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<p>・ 基準の主な内容</p> <p>徳島大学病院長選考規則により、病院長は以下の要件を満たす者とされている。</p> <p>(1) 医師法（昭和23年法律第201号）に基づき医師免許証を交付された医師である者</p> <p>(2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者</p> <p>(3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者</p> <p>なお、具体的事項は、徳島大学病院長選考委員会が策定した選考基準案に基づき、大学役員会の議を経て選考基準を決定し、公表する。</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法 Web上にて公表</p>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無			
<p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ）</p> <p>・ 公表の方法</p>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		(有)・無	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・合議体の主要な審議内容 徳島大学病院運営会議規則により、本院の管理運営に関する以下の事項を審議する。              (1)本院の運営方針に関する事 (2)中期目標・中期計画等に関する事              (3)予算及び決算に関する事 (4)その他本院の管理運営に関する重要事項</li> <li>・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は、診療科連絡会において全部署のスタッフに周知が図られる。</li> <li>・合議体に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・公表の方法 Web上にて公表</li> <li>・外部有識者からの意見聴取の有無 ( (有)・無 )</li> </ul>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
香美 祥二	○	医師	病院長
原田 雅史		医師	副病院長 (総務担当)
西良 浩一		医師	副病院長 (診療担当)
湯本 浩通		歯科医師	副病院長 (歯科担当)
高木 康志		医師	副病院長 (医療安全管理担当)
上田 美香		看護師	副病院長 (看護担当)
脇野 修		医師	病院長補佐 (教育・研修・地域連携担当)
大藤 純		医師	病院長補佐 (救急・災害担当)
川人 伸次		医師	病院長補佐 (医歯連携担当)
三田村 佳典		医師	病院長補佐 (ダイバーシティ・環境担当)
滝沢 宏光		医師	病院長補佐 (研修・キャリア支援担当)
高山 哲治		医師	病院長補佐 (経営企画担当)
中尾 隆之		技師	病院長補佐 (医療支援担当)
近藤 武		外部有識者	病院長補佐 (経営担当)
脇元 直彦		事務	病院長補佐 (事務担当)
松浦 哲也		医師	リハビリテーション部

上原 久典		医師	病理部
坂東 良美		医師	病理部
加藤 剛志		医師	地域産婦人科診療部
板垣 大雅		医師	E R・災害医療診療部
酒井 陽子		医師	麻酔科診療部
早淵 康信		医師	地域小児科診療部
酒井 紀典		医師	高度先進整形外科診療部
佐田 政隆		医師	内科（循環器内科）
西岡 安彦		医師	内科（呼吸器・膠原病内科）
遠藤 逸朗		医師	内科（内分泌・代謝内科）
三木 浩和		医師	内科（血液内科）
和泉 唯信		医師	内科（脳神経内科）
秦 広樹		医師	外科（心臓血管外科）
後藤 正和		医師	外科（食道・乳腺甲状腺外科）
高橋 正幸		医師	外科（泌尿器科）
島田 光生		医師	外科（消化器・移植外科）
石橋 広樹		医師	外科（小児外科・小児内視鏡外科）
北村 嘉章		医師	感覚・皮膚・運動機能科（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
久保 宜明		医師	感覚・皮膚・運動機能科（皮膚科）
橋本 一郎		医師	感覚・皮膚・運動機能科（形成外科）
田中 克哉		医師	脳・神経・精神科（麻酔科）
沼田 周助		医師	脳・神経・精神科（精神科）
漆原 真樹		医師	小児・周産・女性科（小児科）
岩佐 武		医師	小児・周産・女性科（産科婦人科）
生島 仁史		医師	放射線治療科
中西 正		歯科医師	歯科（むし歯科）
市川 哲雄		歯科医師	歯科（そしゃく科）
松香 芳三		歯科医師	歯科（かみ合わせ補綴科）
細木 秀彦		歯科医師	歯科（歯科放射線科）
田中 栄二		歯科医師	矯正歯科（矯正歯科）
岩崎 智憲		歯科医師	小児歯科（小児歯科）



青田 桂子		歯科医師	歯科口腔外科（口腔内科）
宮本 洋二		歯科医師	歯科口腔外科（口腔外科）
池本 哲也		医師	安全管理部
東 桃代		医師	感染制御部
加地 剛		医師	周産母子センター
大倉 一夫		歯科医師	病院情報センター
石澤 啓介		薬剤師	薬剤部長
阪上 浩		医師	栄養部長
竹谷 豊		栄養士	臨床食管理学
森 健治		医師	子どもの保健・看護学
日野出 大輔		歯科医師	口腔保健衛生学
松久 宗英		医師	糖尿病臨床・研究開発センター
岩田 貴		医師	卒後臨床研修センター
山口 治隆		医師	総合診療部

## 規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

### 管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法 Web上にて公表
- ・ 規程の主な内容  
（徳島大学病院規則）
  - ・ 病院長は、本院の業務を統轄し、職員を監督するとともに、教育研究、診療及び経営に従事し、かつ、管理運営をつかさどる。
  - ・ 病院長は、本院を代表し、その責任者となる。  
（徳島大学病院院内組織に関する内規）
  - ・ 各診療科に診療科長及び副診療科長を置く。
  - ・ 診療科長は、当該診療科を担当する教授、准教授又は講師のうちから病院長が任命する。
  - ・ 病院長は、前条の診療科長が次の各号のいずれかに該当する場合は、病院運営会議の議を経て、診療科長を解任することができる。
    - (1) 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。
    - (2) 職務上の義務違反があるとき。
    - (3) その他診療科長たるに適しないと認めるとき。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
  - ・ 副病院長5名（総務、診療、歯科、医療安全管理、看護）
  - ・ 副病院長は、病院長の命を受けて、特定の事項を担当する。
  - ・ 病院長補佐9名（教育・研究・地域連携、救急・災害、医歯連携、ダイバーシティ・環境、研修・キャリア支援、経営企画、医療支援、経営、事務）
  - ・ 病院長補佐は、病院長の職務を補佐する。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況  
管理者向けの研修に参加させている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回</p> <p>・ 活動の主な内容：          次の事項を審議する。          1 病院の医療安全に係る業務遂行の状況に対する監査に関すること。          2 安全管理状況及び改善状況に関すること。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ( (有)・無 )</p> <p>・ 公表の方法：徳島大学、徳島大学病院のホームページにて公表</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
三宅 秀則	徳島市民病院 ・ 名誉院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有 (無)	1
白川 剛	白川剛法律事務所 ・ 弁護士		法律に関する識見を有するため	有 (無)	1
上田 伊佐子	徳島文理大学 保健福祉学部 ・ 教授		医療安全管理についての知識を有し、医療等の内容及び説明並びに同意文書が一般的に理解できる内容であるか等、医療を受ける者の立場から意見を述べる事ができる者(学識経験を有する者)	有 (無)	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
  3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容  
徳島大学監査室において、病院も含めた全学の業務方法書、規則等の整備状況及び実施状況、中期計画に基づく組織及び制度全般の運営状況等について監査を行っている。  
また、コンプライアンス事案を把握した場合は、「国立大学法人徳島大学におけるコンプライアンスの推進に関する規則」に基づき、調査を行う。なお、本規則に関する事務は、総務部総務課において行う。
- ・ 専門部署の設置の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 内部規程の整備の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 内部規程の公表の有無 (  有 ・ 無 )
- ・ 公表の方法 Web上にて公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 開設者（学長）が議長を務める徳島大学経営協議会をもって充てることとし、病院長が委員として出席し、病院の経営に関する事項について審議を行うこととしている。</li> <li>・ 会議体の実施状況（年5回）</li> <li>・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="radio"/>有・無）（年5回）</li> <li>・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</li> <li>・ 公表の方法 Web上にて公表</li> </ul>			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：徳島大学経営協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
植田 貴世子	株式会社クラッシー代表取締役		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
梅田 真司	ケーブルテレビ徳島株式会社代表取締役社長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
大西 康生	株式会社阿波銀行取締役監査等委員会委員長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
北畑 洋	徳島県病院事業管理者		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
後藤田 正純	徳島県知事		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
結城 章夫	学校法人富澤学園理事長（元国立大学法人山形大学長）		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
米田 豊彦	一般社団法人徳島新聞社理事長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
河村 保彦	学長	○	
長宗 秀明	理事（教育担当）・副学長		
佐々木 卓也	理事（研究担当）・副学長		
吉田 和文	理事（地域・産官学連携担当）・副学長		
吉野 明	理事（総務・財務・経営改革担当）・副学長・事務局長		
香美 祥二	理事（病院担当）・副学長・病院長		

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 通報件数 (年0件)</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 )</li><li>・ 周知の方法 徳島大学のホームページにて周知、院内各部署に通知</li></ul>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>1) 病院ホームページへの掲載</p> <p>2) 広報誌：①病院概要</p> <p style="padding-left: 40px;">②徳大病院だより “いきいきらいふ” 年 4 回発行 (5,000部×4回)</p> <p>3) 市民公開講座 (徳島大学病院フォーラム) 年 1 回開催</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>・ がん診療連携センター 都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、複数の診療科と県内 3ヶ所の地域がん診療連携拠点病院および他の様々な医療機関と連携して、県内のがんの診断・治療の向上のみならず、がん医療の相談支援、情報提供、地域連携および均てん化を図る中心的な役割を果たしている。 本センターは、がん研究・研修部門、がん登録部門、がん診療連携・相談部門、がん診療企画部門、がん化学療法部門、がん緩和・こころのケア部門の 6つの部門から構成されている。医師、看護師、薬剤師、技師、心理士、事務職員がそれぞれ高い志の下に連携し、最新の診断・治療機器や高度な治療技術を駆使した横断的な医療の実践のみならず、看護、研究、啓発、情報発信、人材育成まで含めた幅広い分野でがんと闘う組織を整備している。</p> <p>・ 医科と歯科の連携 医科入院患者および I C U 患者、手術・放射線・化学療法前患者に対して口腔管理センター・口腔内科が窓口となって口腔ケアを実施している。さらに特定の診療科 (精神科神経科、心臓血管外科、消化器・移植外科) に特化した口腔ケア体制を構築している。</p> <p>・ 耳鼻科と歯科の連携 摂食・嚥下リハビリテーションを必要とする入院患者に対して、リハビリテーション部医師、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師、歯科医師、言語聴覚士が連携し、カンファレンスを継続して実施している。また、診断の際に必要な V E (嚥下内視鏡検査) の診断について、耳鼻咽喉科・頭頸部外科と協力して実施している。</p> <p>・ 形成外科と矯正歯科の連携 口蓋裂患者及び顎変形症患者のチーム診療を行うため、カンファレンスを定期的 to 実施し、口</p>	

蓋裂患者、顎変形症患者の、口腔外科及び矯正歯科と形成外科・美容外科間の診療ネットワークを構築している。